

専門科目
(言語聴覚障害コース開講)

【科目名】 <div>摂食・嚥下障害学総論</div>		【担当教員】 <div>井上 誠、辻村 恭憲、真柄 仁</div>	
【授業区分】 <div>専門科目</div>	【授業コード】 <div>Dbmhs101</div>	(メールアドレス) <small>井上: inoue@dent.niigata-u.ac.jp 辻村: tsujimura@dent.niigata-u.ac.jp 真柄: jin-m@dent.niigata-u.ac.jp</small>	
【開講時期】 <div>前期</div>	【選択必修】 <div>必修</div>		
【単位数】 <div>2</div>	【コマ数】 <div>15</div>	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後に対応	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本講義は、疾患にもとづく検査と診断から、リハビリテーションにいたるまでの臨床科目というだけでなく、生活弱者を支える栄養支援や環境設定などの幅広い知識を必要とする。十分な事前の学習を必要とするが、不明な点は講義中、講義後に積極的に質問をするなどの対応をしてもらいたい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻・無断欠席のないようにすること。授業中の質問や疑問などを積極的に行い、授業への主体的な参加を心がけること。生成AIの使用に関しては、利用禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。			
【講義概要】 (目的) 正常な摂食嚥下機能及びその神経性制御機構を学んだ後、神経機序からみた嚥下障害の理解へとつなげる。種々の疾患を原因とする摂食嚥下障害の病因、複雑な構造と機能障害について病態生理学的な理解を深める。摂食嚥下障害の検査及びリハビリテーションについての知識を深め、臨床応用へとつなげるだけでなく、一生涯健康に食べることの意義について考えていく。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 主として配付資料及び参考図書を使用して講義を行う。毎回の確認テストを行い、回収後に解答の解説を行う。			
【一般教育目標 (GIO)】 摂食嚥下障害の病態を把握するために、摂食嚥下機能に関する正常像と障害像について理解を深める。 摂食嚥下障害の臨床アプローチを把握するために必要な検査、診断、リハビリテーションの流れを理解する。 【行動目標 (SB0)】 摂食嚥下機能の正常像と病態像を説明する。 摂食嚥下機能障害者に対する臨床的アプローチの手段を説明できる。 摂食嚥下障害の病態像や疾患を取り巻く社会状況に関する新たな知見について説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】 毎回資料を配付する。			
【参考書】 摂食嚥下リハビリテーション第4版（才藤栄一・植田耕一郎監修） 医歯薬出版			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、出席（30%）ならびにレポート（70%）で評価を行う。本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70				30	100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	総論	講義（井上）	準備：これまで学修してきた摂食嚥下障害に関する内容の整理.	180分
2	摂食嚥下機能に関わる神経解剖	講義（井上）	準備：摂食嚥下，解剖，生理等の知識の整理. 事後：授業内容の整理（摂食嚥下機能に関わる末梢神経解剖）.	準備学習 90分 事後学習 90分
3	摂食嚥下機能を支える中枢メカニズム	講義（井上）	準備：摂食嚥下，解剖，生理等の知識の整理. 事後：授業内容の整理（摂食嚥下機能に関わる中枢神経解剖）.	準備学習 90分 事後学習 90分
4	摂食嚥下障害の診断に必要な検査とその方法	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害の検査と診断）の知識の整理. 事後：授業内容の整理（原因疾患）.	準備学習 90分 事後学習 90分
5	障害の考え方と摂食嚥下リハビリテーション	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（リハビリテーション論）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分
6	脳血管疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（脳血管疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分
7	呼吸機能と呼吸器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（呼吸器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分
8	小児（発達障害，先天異常）の摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（小児の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	準備学習 90分 事後学習 90分

9	代謝系疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（代謝性疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
10	動物実験の最近の知見	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害のメカニズムに関連した動物実験）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
11	消化器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（消化器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
12	頭頸部腫瘍に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（頭頸部腫瘍術後の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
13	神経疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（神経疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
14	ヒト研究の最近の知見	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害のメカニズムに関連したヒト研究）の知識の整理. 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分
15	高齢者の摂食嚥下障害に対する考え方	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域の知識の整理ならびに臨床への展開に向けた課題を考える。 事後：学修内容のまとめ.	準備学習 90分 事後学習 90分

【科目名】		口腔咽喉頭機能学		【担当教員】	山村 千絵
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	ds 102	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金 10:30～12:00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
口腔・咽頭・喉頭及び周辺領域の解剖・生理について、摂食嚥下や言語聴覚機能・障害に関連した専門科目を学ぶために必要となる高度な内容へと発展させていく講義とします。言語聴覚障害コースの学生向けに、臨床歯科医学・口腔外科学の内容を教授します。 試験やレポートには、コメントを付して返却します。 障害等があって配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
少人数で双方向型の授業を展開します。授業には積極的に参加しましょう。 生成AIについては、利用可の場面を限定します。「講義資料の要約、レポートの草稿作成」の場合においてのみ利用を許可します。これ以外の場面での利用は禁止します。					
【講義概要】					
(目的)					
摂食嚥下や言語聴覚機能・障害に関連した頭頸部・顔面・口腔・咽頭・喉頭の構造と機能を中心に講義します。また臨床歯科医学の領域からは「歯・歯周組織」「口腔・顎・顔面」「顎関節」「唾液腺」「口腔ケア」「歯科医学的処置」などの内容を、口腔外科学の領域からは「構音、摂食、咀嚼の障害と関係ある疾患及びそれに対する歯科医学的治療法」「本領域における炎症、感染症、腫瘍、嚢胞、外傷並びに治療後の欠損」「中枢性疾患や加齢による口腔機能障害」等を網羅します。 ●当該科目と学位授与方針等との関連性： 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
主として配付資料やパワーポイントスライド等を用いて講義を行います。また、研究者として不可欠なクリティカルシンキング（自律的に能動的に考える能力と態度、自分なりの意見を持ち、建設的・積極的に思考すること、物事を論理的に批判的に捉えて思考すること）を鍛えるために関連領域の論文も抄読します。その他、受講生の希望に沿った講義を組み立てて実施します。 ●試験・レポートのフィードバック方法： コメントを付して返却します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・生体機能、特に口腔機能を科学的視点で捉えるために、それぞれの機能発現における神経系の仕組みを理解する。 ・言語聴覚障害コースの学生は言語聴覚士国家試験受験に必要な臨床歯科医学・口腔外科学領域の知識を身に付ける。					
【行動目標 (SB0)】					
・摂食嚥下や言語聴覚機能に関連した、口腔・咽頭・喉頭の構造と機能を詳細に説明できる。 ・摂食嚥下の神経機構や歯科領域の疾患・治療について最近の知見も含めて説明できる。 ・味覚や唾液分泌のしくみを説明でき、歯科臨床的トピックスと関連付けて考察できる。 ・関連領域の論文を客観的に理解し評価することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に指定しない、プリント等を配付する。					
【参考書】					
金子芳洋（訳）摂食・嚥下メカニズムUPDATE 構造・機能からみる新たな臨床への展開 医歯薬出版 2006年 ¥5,940 税込 才藤栄一（監）摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版2016年 ¥8,360 税込 夏目長門（編）言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 2016年 ¥4,620 税込					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、記述式試験80%、講義途中で課すレポート等課題の達成度20%の割合で実施する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	関連領域のトピックス 聴講学生に合ったテーマのトピックス紹介と討議	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
2	口腔（歯・歯周組織）・顎・顔面・顎関節・唾液腺・咽頭・喉頭の構造と機能 口腔（歯・歯周組織）・顎・顔面・顎関節・唾液腺・咽頭・喉頭の解剖と生理 ～一歩進んで…～	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
3	咀嚼運動 咀嚼運動の仕組み、神経性制御 最近の知見	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
4	味を感じる仕組み・味覚障害 味覚受容機構、味覚の意義、おいしさとは、味覚障害の種類 臨床的トピックス	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
5	嚥下運動 嚥下運動の仕組み、神経性制御 中枢性疾患や加齢による口腔機能障害 最近の知見	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
6	歯・口腔・顎・顔面の診察法 歯・口腔・顔面の症状の表現方法 本領域における炎症、感染症、腫瘍、嚢胞、外傷、治療後の欠損 歯科医学的治療法・処置	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
7	唾液の働きと分泌機構 唾液の生理的機能、分泌機構 唾液を使って行う各種検査 口腔ケア 臨床的トピックス	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分
8	関連領域の論文抄読、論文の書き方 聴講学生が選択した興味ある論文の抄読 論文の書き方の基本 ＊言語聴覚障害コースの学生は国家試験対策も含む	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分 90分

【科目名】		摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）		【担当教員】	倉智 雅子、松村 博雄、木戸 寿明
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbms106	(メールアドレス) 倉智：mkurachi@iuhw.ac.jp (オフィスアワー) 倉智：メールにて随時	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 頭頸部領域の解剖について、学部レベルの基礎知識を有していること。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 学修に取り組む姿勢も評価の対象となるため、積極的な質問や意見交換が望まれる。 生成系AIの利用は可能。授業内、予復習、成果物作成において、自由に利用できる。ただし、利用した場合はその旨記載すること。					
【講義概要】 (目的) 「学位授与の方針と当該授業科目の関連」：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 主として、配付資料とトピックに合わせた動画を使用して講義を行います。 演習については授業の中で正しい解釈について解説します。 「試験・レポートのフィードバック方法」 倉智：レポートについては、コメントを付して返却します。 松村：理解度確認テストにコメントを付して返却。 木戸：ディスカッション・ディベートの中で、現状の理解度の把握と必要な助言を行います。					
【一般教育目標 (GIO)】 摂食嚥下障害の臨床の土台となる知識と技能を習得するために、ヒトの鰓弓（咽頭弓）性器官の変遷、転用、痕跡など形態形成の特徴をとらえて、摂食・嚥下に関する形態と機能を理解する。また、口腔ケアに必要な知識と技術を修得する。 【行動目標 (SB0)】 口腔の診察：口腔内の観察の仕方を説明でき、歯科領域特有の専門用語を用いた表現ができる。さらに一般的な歯口清掃の仕方のみならず、高齢者障害のための口腔ケア実習を通し、義歯の取り扱い、口腔内清拭、舌の清掃、口腔乾燥のケア等について実施できる・演習を通し、顎顔面領域のレントゲン画像の見方や、診療報酬・介護報酬のしくみが概説でき、医療事故等の事例分析ができる。・嚥下に関与する感覚系・運動系の解剖生理および嚥下に関与する延髄や上位中枢の役割がわかる・嚥下障害症例のビデオ画像解析ができる（演習）					
【教科書・リザーブドブック】 倉智：プリントを配付予定 松村：プリントを配付予定 木戸：プリントを配付予定					
【参考書】 倉智：才藤栄一，植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版．医歯薬出版， 2016． ￥7,600					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 3人の担当者の評価を倉智50％（うち、レポート40％、演習および学修に取り組む姿勢10％）、松村25％、木戸25％の割合で合わせて総合的に評価を行う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			70					70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	嚥下の神経機構	講義（倉智）	予習：これまでに学習した嚥下器官の解剖（特に神経支配）と健常嚥下の生理を復習しておく 復習：講義ノートおよび講義資料の整理と確認	180
2	嚥下反射の惹起機構：感覚受容器の特性	講義（倉智）	予習：これまでに学習した嚥下器官のうち、特に口腔と咽喉頭の解剖を復習しておく 復習：講義ノートおよび講義資料の整理と確認	180
3	嚥下の異常所見とその解釈	講義・演習（倉智）	予習：嚥下造影で観察できる健常嚥下の動態および異常所見の確認 復習：演習を通して気付いたことや疑問点をディスカッションで発言できるようまとめる。	180
4	嚥下障害症例の嚥下造影画像解析とディスカッション	講義・討議（倉智）	予習：討議参加への準備 復習：講義ノートおよび講義資料の整理と確認	180
5	鰓弓性(咽頭弓)器官 咀嚼、哺乳、嚥下、発声の発生学	講義（松村）	準備学習：初期発生について	180
6	脳神経Ⅴ、Ⅶ、Ⅸ、Ⅹ 脳神経と咀嚼、嚥下、発生のかかわり	講義（松村）	準備学習：脳神経の解剖学	180
7	全身状態の評価 バイタルサイン、摂食嚥下に関わる身体機能評価	講義（木戸）	準備学習：臨床検査学の復習	180
8	口腔の診察 口腔内観察法と歯科専門用語、口腔ケアの理論と実際	講義（木戸）	準備学習：臨床歯科医学の復習	180

【科目名】 高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）		【担当教員】 伊林 克彦
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dBmhs109	(メールアドレス) ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 火曜日午後
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目を受講するには基礎的な神経解剖学を修得していることが前提です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では大脳の器質的な損傷に伴う巣症状を理解していることが求められます。 生成AIの利用は不可とする。		
【講義概要】 (目的) 高次脳機能障害を幅広く理解する。 中枢神経系の理解を深める。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 授業やディスカッションにおいて積極的な参加を望む。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 試験や授業の後で個々にフィードバックする。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・ 中枢神経系の発生、形態学ならびにヒトの脳の特徴（特殊化）を研究する。 ・ 高次脳機能について幅広く概観する。 【行動目標 (SB0)】 ・ 高次脳機能が日常生活にどのように関わっているかを学修する。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配付します。		
【参考書】 脳解剖学 萬年甫 原一之 南江堂 9,800円 高次脳機能障害 藤田郁代 医学書院 4,725円		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート60%、口頭試問40%。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		60					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		60					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高次脳機能障害とは 高次脳機能の基本概念	講義	中枢神経系に関する解剖学および神経学の書籍を読む。	220
2	聴覚認知とは 聴覚認知の障害	講義	聴覚と脳の関係について関連書を読んで予習する。	220
3	視覚認知とは 視覚認知の障害	講義	視覚と脳の関係について関連書を読んで予習する。	220
4	視空間認知とは 視空間認知の障害	講義	視空間知覚と脳について関連書を読んで予習する。	220
5 6	5 高次脳機能障害の臨床像 ①各症状の出現頻度 ②各症状と左右脳半球の関係	講義	脳血管障害、変性疾患、外傷、脳腫瘍などの疾患に対する文献や書籍を通して予習する。	220
7	触覚認知とは 触覚認知の障害	講義	触覚及び体性感覚と脳について関連書を読んで予習する。	220
8	行為機能とは 行為の障害	講義	行為・遂行機能と脳について関連書を読んで予習する。	220

【科目名】		高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）		【担当教員】	大平 芳則
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmhs110	(メールアドレス) y.ohdaira@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 水曜12:40～13:30	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関及び地域保健・健康増進事業等で言語・高次脳機能障害者へのリハビリテーションに従事してきた経験から、脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。 本科目は言語聴覚士、公認心理師等を目指す者には重要な科目となります。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成AI、PC、スマホ、電子辞書、紙ベースの辞書等、利用できるものは何でも活用する。ただし、それらは全て適切に使う必要がある。引用した場合には、文献を明記し、引用箇所を明らかにする。特に、生成AIを使用した場合は、使用した箇所が明確に分かるよう記載し、必ず自分で内容を吟味し、必要な修正を行うことが求められる。 演習を行ないながら進めますので、毎回必ずPCを持参してください。					
【講義概要】 (目的) ①脳機能と心のはたらき（脳と心）の関係 ②脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのか、を学ぶ。そして、 ③脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：専門領域に関する多様な課題を分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法) スライドを使った講義と演習を中心に進める。毎回スライド資料を配布する。 既に高次脳機能障害に関する基礎的な科目を履修していることが望ましい。大脳の機能や高次脳機能障害の基本的なことを身につけていないと理解できない可能性がある。 可能な限り具体的な症例を通して实际的に学べるように、演習を行ないながら進めますので、毎回必ずPCを持参してください。					
【一般教育目標 (GIO)】 ①脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 ②高次脳機能障害の神経学的・生理学的作用機序を説明できる。 ③脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。					
【行動目標 (SB0)】 高次脳機能障害と脳機能との関連性が理解でき、適切に支援することができる。 コミュニケーション能力の機序を脳機能から理解でき、その機能障害が生活・社会活動全般に及ぼす影響も説明できる。 症例に即した神経心理学的検査を正しく実施でき、その結果を適切に評価できる。					
【教科書・リザーブドブック】 なし。 資料を配付します。					
【参考書】 田川皓一 池田学 神経心理学への誘い 高次脳機能障害の評価 西村書店 2020年 6800円＋税 石合純夫 高次脳機能障害学 医歯薬出版 2022年 4500円＋税 山鳥重 神経心理学入門 医学書院 1985年 6400円＋税					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価は課題レポート100%とする。 出席点は評価に含まない。 課題レポートについては、その解説をもってフィードバックとする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 大脳について重要事項の確認	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
2	高次脳機能障害について重要事項の確認	講義	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
3	前頭葉の損傷例 1 症例紹介	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
4	前頭葉の損傷例 2 報告書の作成	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
5	頭頂葉の損傷例 1 症例紹介	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
6	頭頂葉の損傷例 2 報告書の作成	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
7	側頭葉の損傷例 1 症例紹介	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180
8	側頭葉の損傷例 2 報告書の作成	講義 演習	講義で行った部分の資料を用いて復習	180

【科目名】		高次脳機能障害評価学Ⅱ（画像）		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Bhs203	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー)火曜日午後	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
個人情報を取り扱う場合があるので、注意すること。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
高次脳機能障害の中でも大脳の画像と神経学的症状が中心となるため、学部の実習前に学んだ画像診断について教科書等で予習しておくことが求められる。					
生成AIの利用は不可とする。					
【講義概要】					
(目的)					
高次脳機能（画像検査・脳波等）について実際に経験した症例の問題点を出してみる。					
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】					
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
学部以上に画像診断に対する知識が求められ、病巣の同定・症状の分析さらに訓練内容や予後の判断に不可欠となっているため、臨床でも数多くの画像に接して欲しい。					
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】					
質問などに対し、メール又は口頭で随時対応を行う。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・画像から必要な所見を読み取れるように、実例を用いて画像診断を学ぶ。					
【行動目標 (SB0)】					
・神経心理学的症状について専門的に説明できる。					
・画像から失語症を読み取る。					
・画像から失行症を読み取る。					
・画像から失認症を読み取る。					
【教科書・リザーブドブック】					
資料を配付します。					
【参考書】					
田川皓一 峰松一夫 監訳 「神経心理学の局在診断」 西村書店 9,500円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					
レポート60％、口頭試問40％					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			60				40	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	失語症と画像診断 失語症例の画像	講義	古典分類を主とした失語症の分類と症状について予習する	220
2	同上	講義	古典的分類以外の失語症について予習する	220
3	高次脳機能障害患者の画像診断（症例報告）画像 case report 1	講義	巣症状を中心とする患者のCT及びMRI画像を見ておく	220
4	失行症と画像診断 失行症の画像	講義	失行症についての神経学的及び神経心理学的知識を深めておく	220
5	失認症と画像診断 失認症の画像	講義	失認症についての神経学的及び神経心理学的知識を深めておく	220
6	認知症を中心とした画像診断（症例報告） 画像 case report 2	講義	認知症の概念や診断、評価法などについて予習する	220
7	外科的手術による認知症の治療法 Treatable dementia（外科的）	講義	認知症の外科的治療法について予め調べておく	220
8	薬物による認知症の治療法 Treatable dementia（内科的）	講義	薬物による認知症の治療について我が国で用いている薬について調べておく	220

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	25		25					50
	思考・推論・創造の力			25					25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	25							25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	発達障害の概念 ・発達障害の定義 ・発達障害の種類 ・発達障害の原因	講義	配布資料を読む。	220分
2	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・知的障害 ・自閉症スペクトラム障害 ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	220分
3	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・学習障害 ・前回提示された症例の課題を討論する ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	220分
4	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・特異的言語発達障害 ・前回提示された症例の課題を討論する ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	220分
5	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・知的障害 ・前回提示された症例の課題を討論する ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	240分
6	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・知的障害 ・前回提示された症例の課題を討論する ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	240分
7	発達障害の症状と行動特徴、評価と指導 ・注意・欠如多動性障害 ・前回提示された症例の課題を討論する ・症例提示	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	220分
8	発達障害の地域包括支援 ・幼児の支援-児童福祉法 ・児童の支援-学校教育法 ・成人の支援-発達障害者支援法 ・前回提示された症例の課題を討論する	講義・討議	配布資料を読む。 提示された症例の課題を考えまとめる。	220分

【科目名】失語・失読・失書		【担当教員】道関 京子	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmhs 117	(メールアドレス) kei.doseki@gmail.com	
【開講時期】後期	【選択必修】選択		
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) メール	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
この科目の履修に際しては、失語症のタイプや言語症状についての基礎知識を前提にしているため、それらについて復習しておくこと。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
・日本語学・心理学の知識も深めながら講義・討議するため、積極的・能動的に受講すること。 ・生成系 AI の利用を制限はしないが、授業内、予復習、成果物（まとめ・課題発表）において使用した場合には、その旨を明示し、かならず自身の意見と分けて提示すること。			
【講義概要】			
(目的)			
・高次脳機能障害の代表として失語症・失読症・失書症を構造的に理解する。 ・発話文の成り立ちと構造を科学的に理解し、リハビリテーションに活用する力を身につける。			
・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
(方法)			
・失語の問題を文法論研究の観点から展開する。 ・講義ごとに失語リハビリテーションの臨床研究への考察も探求していく。			
・課題やレポート等に対するフィードバックの方法は、質問や意見およびレポート課題に対して解説し、時間外にも延長し十分時間をとる。			
【一般教育目標 (GIO)】			
・失語症を構造的に把握するため、文法（統語）と語（命名）の質的研究力を培う。 ・言語科学的考察からの失語症リハビリテーションを理解する。			
【行動目標 (SB0)】			
・失語症の各症候群の中心問題を鑑別できる。 ・失語症の話しことばの文法構造の問題について説明できる。 ・健忘失語の呼称や語想起障害の構造面を解説できる。 ・失語症のリハビリテーション企画の基礎を習得できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
・渡辺実：国語文法論．笠間書院，1997．¥1,760（税込）． ・毎回、資料を配布する。			
【参考書】			
・道関京子：新版失語症のリハビリテーション全体構造法、基礎・応用編，医歯薬出版，2016．¥4,180・¥4,400（税込）			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価は、毎回のまとめ・課題発表50％、レポート50％の割合で評価する。 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価 指標	取り込む力・知識			25	25				50
	思考・推論・創造の力			25	25				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	<ul style="list-style-type: none"> 失語症研究の課題と問題点 文法（統語）論の対象 発話（話しことば）を対象とする 基本用語の説明 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 予習：失語症の整理を行う 文法基本用語の内容を復習する 	180分
2	<ul style="list-style-type: none"> 発話文の文法とは 語の文中における機能の研究 各文法研究（語用論を含む） 失語評価やリハビリへ文法論の必要性 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 失語症理解における文法論の必要性を復習する 文法論の評価、リハビリへの要点を発表できるようまとめる。 	180分
3	<ul style="list-style-type: none"> 統叙機能の理解 失語の流暢性判定における話しことばの単位 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 統叙の機能について復習する 流暢性判断を具体的にまとめて発表の準備をする 	180分
4	<ul style="list-style-type: none"> 陳述（モダリティ）機能の理解 陳述障害による失文法（超皮質性運動失語） 超皮質性運動失語のリハビリテーション 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 陳述機能について復習する 超皮質性運動失語の発話特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
5	<ul style="list-style-type: none"> 叙述（日本語格関係）機能の理解 叙述障害による失文法（Broca失語） Broca失語のリハビリテーション 	まとめ発表 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 叙述機能について復習する。 Broca失語の発話特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
6	<ul style="list-style-type: none"> 連体の機能の理解 格助詞から構成される準空間障害による理解障害（健忘失語，意味性失語，意味性認知症） 健忘失語のリハビリテーション 	課題検討 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 連体機能について復習する 健忘失語の理解障害の特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
7	<ul style="list-style-type: none"> 発話体系から失語の問題とリハビリを探究 1 ー全失語、Broca失語、超皮質性運動失語、伝導失語ー 	課題検討 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 各タイプの失語の発話特徴を復習する 全失語と伝導失語の発話特徴とリハビリをまとめ発表の準備をする 	180分
8	<ul style="list-style-type: none"> 発話体系から失語の問題とリハビリを探究 2 ーWernicke失語、超皮質性感覚失語、健忘失語、皮質下性の失語様症状群ー 	課題検討 講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 各タイプの失語の発話特徴を復習する Wernicke失語、超皮質性感覚失語皮質下性失語様群をまとめる 	220分

【科目名】運動機能科学総論		【担当教員】高橋 洋
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbMhs118	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	hiroshit@nur.ac.jp
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 来校時に随時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 運動機能科学コースの学生は必修科目 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成AIの利用を全面的に許可します。授業内、予習復習レポート作成において自由に利用してください。使用した場合その旨をレポートに記載してください。		
【講義概要】 (目的) 理学療法関連分野の運動器等の関する様々な考え方アプローチ方法を発見分析し、自ら考える能力を培う。 (方法) 配布資料を使用し、スライドによる講義、実技のデモンストレーションを行います。レポートにコメントを付して返却します。		
【一般教育目標 (GIO)】 理学療法及び関連分野の知識・とらえ方・アプローチの方法等を知り仕事・学業のヒントとする。 【行動目標 (SB0)】 研究分野との関連性を考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 プリントを配布する。		
【参考書】 配布資料に書かれている図書の欄を参照してください。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価はレポート100%で行う。成績評価基準は、新潟リハビリテーション大学学則・授業科目の履修方法・試験評価規定及びその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 「姿勢コントロール」(Jane Johnson著 武田功 弓岡光徳監訳 医歯薬出版)	講義	解剖、運動学の予習	180分
2	「Individual Muscle Stretching ストレッチング 第2版」 鈴木重行編 三輪書店	講義	1 コマの講義内容の復習 解剖の予 習	180分
3	「マッスルインバランスの理学療法」 荒木茂 運動と医学の出版社	講義	2 コマの講義内容の復習 解剖の予 習	180分
4	「運動のつながりから導く肩の理学療法」 千葉 真一編 文光堂	講義	3 コマの講義内容の復習 解剖の予 習	180分
5	「体幹と骨盤の評価と運動療法」 鈴木俊明監修	講義	4 コマの講義内容の復習 運動学の 予習	180分
6	「体幹と骨盤の評価と運動療法」 鈴木俊明監修	講義	5 コマの講義内容の復習 解剖の予 習	180分
7	「コアセラピーの理論と実践」 平沼憲治 岩崎 由純 監修 講談社	講義	6 コマの講義内容の復習 解剖の予 習	180分
8	「コアセラピーの理論と実践」 平沼憲治 岩崎 由純 監修 講談社	講義	7 コマの講義内容の復習 解剖の 予習	180分

【科目名】心の健康科学総論(心の健康教育に関する理論と実践)		【担当教員】宮岡 里美	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmHs 131	(メールアドレス)	
【開講時期】前期	【選択必修】必修	gskanri2020@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 出講時及び随時メールにて応じます	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
※本科目は、心の健康科学コースの必修科目であり、公認心理師国家試験の受験資格を得るための指定科目です。 ※本科目は実務経験を有する教員による授業です。大学院での心の健康科学教育に関する実務経験、及び保健・医療・福祉機関での臨床経験（言語・高次脳機能障害や精神機能障害へのリハビリテーション）から、「心の健康教育に関する理論と実践」について講じていきます。 「心の健康」は、保健医療、福祉、教育、産業・労働、そして司法・犯罪の全ての領域において重要な課題です。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
欠席する場合は事前に連絡してください。その場合、資料は後日配布し、必要があれば振替講義を検討します。 積極的態度で受講し、関心あるテーマは自身で情報収集して問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。 授業中に実施した心理テスト等のデータは各自で確認し、提出を求めません。生成系 AI の利用を全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合には、生成AI の出力を引用した箇所や生成 AIサービスの名称、バージョンを明記してください。			
【講義概要】			
(目的)			
多様な価値観、高度に複雑化した競争社会の中で、緩むことのない心の緊張が「心の病」を生み出し、さまざまな疾患を発症させています。本科目では、ストレスのメカニズムとその対処法（ストレス・マネジメント）について、基本的な知識を講じていきます。将来、「心の健康」に関する知識の普及をも図ることができるよう、その支援/教育法にも触れていきます。 【当該科目と学位授与方針との関連性】「専門領域に関する多様な課題を発見・分析し、自ら解決する能力を培う。」			
(方法)			
配布資料に基づき、Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。参考資料や関連法規等は、授業中に紹介します。講義内容に関連した調査や心理テストを実施します。その場合、目的や結果の意味するところは解説しますが、各人の結果データの提出は求めません。 課題レポートについては、評価基準を講義内で説明します。 また、講義内容に関連したテーマについてグループ討論をした場合は、グループ発表を実施します。			
【一般教育目標(GIO)】			
「健康とは何か？」を国際的定義から説明できる。 ストレスが脳、身体、心、認知や行動へ及ぼす影響、そして疾患との関係を科学的根拠に基づいて説明できる。 日常生活や社会生活全般において、「心の健康」が良好な人間関係の構築に必須であること、そして各人の幸福感、延いては健全な社会の発展に繋がることを理解する。			
【行動目標(SBO)】			
‘いじめ’や自殺は現代の大きな社会問題です。その根底に潜むストレスを心理・社会的側面と神経生理的側面からも正しく理解し、適切な心の支援へと繋ぐことができる。 心の健康の維持増進のために、あるいはそれが損なわれたケースに対して、適切な心理学的支援ができる。 ライフサイクルにおける各年代、社会的役割等におけるストレス要因を知り、適切な健康管理ができる。			
【教科書・リザーブドブック】			
特に指定せず、必要な資料（関連法規を含む）は配布する。 講義内容に関連し、厚生労働省が発信している「心の健康」に関するサイトは随時、紹介していく。			
【参考書】			
ラザルス&フォークマン著・本明寛他訳／ストレスの心理学／実務教育出版／1991年／5,872円 厚生労働省「健康日本21（第二次）」内、「こころの健康」を参照のこと。 Newton 別冊ムック「脳と心：脳の最新科学,そして心との関係」(株)ニュートンプレス(2010/11/15) ¥2,415（税込）			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
授業への能動的/積極的な受講態度及び参加30%、レポート課題70%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。 成績評価基準は本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程及びその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 * 障害への配慮が必要な学生は教員と事前に相談することを推奨します。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70	10		20		100
評価 指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	健康心理学とは？ ・「健康」の定義 【演習】精神健康調査票（GHQ 28） ストレスとは？ ・ストレッサーとストレス反応	講義	【予習】WHOのQOLの定義から「心の健康」を理解しておく。【復習】精神健康調査票（GHQ 28）の結果を考察し、「心の健康」の構成要因を再確認する。	60分 120分
2	ストレスに対する心理的反応 ・不安 【演習】顕在性不安尺度(MAS) ・怒りと攻撃性 ・アパシーと抑うつ感	講義 実技	【予習】ストレッサーと心理的反応の関係を確認しておく。 【復習】顕在性不安尺度(MAS)の結果を考察する。	60分 120分
3	ストレスに対する生理的反応（身体への影響） ・闘争・逃走反応 ・汎適応症候群 ・タイプA行動とその修正支援	講義	【予習】ストレッサーと生理的反応の関係を確認しておく。 【復習】タイプA行動チェックの結果を考察する。	60分 120分
4	PTSD ・PTSDの定義 【演習】PTSD Checklist (PCL) ・PTSDの発症要因 ・発症メカニズム ・自然災害とPTSD ・心理学的支援法	講義 実技	【予習】ASD及びPTSDの定義を確認しておく。 【復習】PTSDチェック項目から、その発症要因を把握する。	60分 120分
5	ストレスによる健康への影響 ・ライフサイクルとストレス ストレス関連疾患 ・パニック障害 ・うつ 【演習】BDI/SDS ・依存症（薬物、アルコール等）	講義 実技	【予習】20～30代の「働き方」をワークライフバランスの観点から検討する。 【復習】BDI/SDSの結果から「うつ症状」を考察する。	60分 120分
6	ストレス理論 ストレス耐性 ・精神分析理論 ・行動理論 ・認知理論 ・ハーディネス ・楽観主義 ・意味を見出す	講義 討議（グループディスカッション）	【予習】各学派の理論、基本的な考え方を確認しておく。【復習】身近なストレス事例を想定し、各学派の考え方から検討し、具体的な心の支援の実践法を考案する。	60分 120分
7	ストレスコーピング 自殺予防 ・行動療法・運動療法・認知行動療 ・自己コントロール/心理的サポート ・リスク要因と適切な予防法	講義 討議（グループディスカッション）	【予習】各学派の理論、基本的な考え方を確認しておく。【復習】身近なストレス事例を想定し、各学派の考え方から検討し、具体的な心の支援の実践法を考案する。	60分 120分
8	「孤独・孤立対策推進法」の概説 「心の健康づくり」の支援 事例検討：家庭/学校/職場でのストレス要因と児童虐待/いじめ/高齢者虐待の実態【演習】WHO SUBI: The Subjective Well-being Inventory	講義 討議：事例検討 発表	【予習】”いじめ”の原因・要因を推察し、列挙する。【復習】以上を踏まえ、多角的に「心の健康づくり」を提言する。SUBIの結果を考察し、Well-beingの概念を理解する。	60分 120分

【科目名】 <div>高齢期とリハビリテーション心理学(福祉分野に関する理論と支援の展開)</div>		【担当教員】 <div>大矢 薫</div>	
【授業区分】 <div>専門科目</div>	【授業コード】 <div>dbmH213</div>	(メールアドレス) <div>ohya@nur05.onmicrosoft.com</div>	
【開講時期】 <div>前期</div>	【選択必修】 <div>必修</div>		
【単位数】 <div>1</div>	【コマ数】 <div>8</div>	(オフィスアワー)12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】 <div>(受講者に関わる情報・履修条件)</div> <div>学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</div>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	超高齢社会	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	高齢者医療	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	支援者の専門技能	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	高齢者支援	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	認知症	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	精神疾患	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	高齢者虐待・介護者支援	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	喪失・幸福	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【科目名】		臨床心理学	【担当教員】	加藤 真由美
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s139	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ma.kato@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 11:00～13:30(水～金)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 臨床心理学にかかわる基本事項について講じます。 言語聴覚士をめざすうえで必要な臨床心理学の知見について理解を深めてください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 講義に関する資料や課題は、配布する。 課題は、必ず指定の期日までに提出すること。 生成AIの使用は認めない。				
【講義概要】 (目的) 臨床心理学の要点を理解する。 臨床心理学の視点から対象者の心理的な課題を把握し、援助するための理論や方法を理解する。 ●当該科目と学位授与方針との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法) 主として指定の教科書を参照しながら講義を行う。 必要に応じて、追加資料を配布する。 試験・レポートのフィードバック方法：答案を返却する				
【一般教育目標 (GIO)】 臨床心理学に関する基本的な知識を身につける。 臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。 臨床心理学の観点を踏まえて、自身の専門性に基づいた適切な援助を見出せる。				
【行動目標 (SB0)】 臨床心理学の歴史的経緯、主要な理論などについて説明できる。 臨床心理学の観点を踏まえて、自身の専門性に基づいた適切な援助ができる。				
【教科書・リザーブドブック】 下山晴彦 監修・編著、佐藤隆夫 監修、本郷一夫 監修、石丸径一郎 編著 公認心理師スタンダードテキストシリーズ 3『臨床心理学概論』 ミネルヴァ書房 (2,400円＋税)				
【参考書】 下山晴彦, 中嶋義文, 鈴木 伸一, 花村 温子, 滝沢龍, 公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法, 医学書院, 3,465円 (税込み)				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ●成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ●各回の小テスト、試験などから、総合的な評価を行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	●臨床心理学とはどのようなものか	講義	教科書を使用した復習	180
2	●臨床心理学はどう役立つか	講義	教科書を使用した復習	180
3	●臨床心理学と公認心理師	講義	教科書を使用した復習	180
4	●臨床心理学の成り立ち	講義	教科書を使用した復習	180
5	●臨床心理学はどう役立つか	講義	教科書を使用した復習	180
6	●臨床心理学と生物－心理－社会モデル	講義	教科書を使用した復習	180
7	●臨床心理学における支援の前提 「動機づけ面接」を理解する	講義	教科書を使用した復習	180
8	●「臨床心理学」まとめ	講義	教科書を使用した復習	180

【科目名】生涯発達心理学		【担当教員】大越 陽平
【授業区分】専門科目	【授業コード】s140	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	
(オフィスアワー) 講義日に対応する。		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 出欠確認を兼ねたレポートを毎回課す。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻、欠席、早退は学則に従う。		
【講義概要】 (目的) 1. 生涯発達の基本的な考え方や、乳幼児から老年期までのそれぞれの時期の発達のしくみと様相を理解する。 2. 各発達段階で生じやすい問題や障害を知り、その予防や発達支援への認識を持つ。 当該科目と学位授与方針等との関連性: 専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を養う。 (方法) 教科書と配布資料を使い、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の時期ごとに特徴や生じやすい問題や障害をとらえ、人がどのように発達し、変化していくかについて基本的な考え方や知見を解説する。乳幼児期については動画を用いて理解を深める。レポートのフィードバック方法: 授業内で報告する。		
【一般教育目標 (GIO)】 乳幼児期～老年期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。 【行動目標 (SBO)】 各発達段階の認知、感情、対人関係、社会性などの特徴を理解し、生じやすい問題への予防や対応への認識を学ぶ。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配布する。		
【参考書】 鈴木ら（2016）生涯発達心理学. 有斐閣アルマ		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 レポート成績（100%）で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生涯発達心理学の基礎 生涯発達とは？/発達の規定要因/発達理論	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。	180
2	胎児期・乳児期：知覚の発達 乳児期：認知、言語の発達	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	180
3	乳児期：人との関係の始まり	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	180
4	幼児期：今この世界からイメージとことばの世界へ 幼児期：自己の育ちと他者との関係	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	180
5	児童期：思考の深まり 児童期：友人との関わりと社会性の発達	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	180
6	青年期：自分らしさへの気づきと模索 青年期：他者を通して自分を見る	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	180
7	成人期前期：家庭と仕事 成人期後期：成熟と中年期の危機	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	180
8	老年期：人生の振り返りと心理的ケア	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	180

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		30					100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20		30					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	学習とは何か ・学習研究の始まりと方法論 行動主義と認知論 古典的条件づけ：行動の獲得 ・条件づけの典型例 ・条件刺激と無条件刺激 ・汎化と弁別	講義	【予習】学習の定義、及びこの領域の心理学史の概略を教養課程での教科書等で確認しておく。 【復習】ST国試過去問を通して関連キーワードの理解を深める。	90分 90分
2	古典的条件づけ ・恐怖の条件づけ ・実験神経症 ・行動療法 ※古典的条件づけのまとめ オペラント条件づけ：行動の獲得 ・条件づけの典型 ・オペラント条件づけの型	講義	【予習】古典的条件づけとは何かを教養課程での教科書等で確認しておく。 【復習】ST国試過去問を通して関連キーワードの理解を深める。	60分 120分
3	オペラント条件づけ ・オペラント条件づけによる行動の獲得と消去 ・汎化と弁別 ・臨床応用 ※オペラント条件づけのまとめ	講義	【予習】オペラント条件づけとは何かを教養課程での教科書等で確認しておく。 【復習】ST国試過去問を通して関連キーワードの理解を深める。	60分 120分
4	社会的学習 ・社会的学習とは何か ・模倣学習 ・観察学習 ・攻撃行動 ・罰の効果 ・いじめの発生	講義	【予習】社会的学習とは何かを教養課程での教科書等で確認しておく。 【レポート課題】 ・攻撃行動はなぜ発生するのか？を学習理論に基づいて考察する。	60分 120分
5	社会的学習 ・自己効力感 (Self-Efficacy) ・Self-Efficacyの測定 ※社会的学習のまとめ	講義 実習	【復習】ST国試過去問を通して関連キーワードの理解を深める。 【レポート課題】「自己効力感」の測定結果をまとめ、考察する。	60分 120分
6	技能学習 ・学習曲線 結果の知識 練習条件 ・技能の記憶 技能の転移 ※技能学習のまとめ レポート課題：技能学習の学習曲線	講義 実習：鏡映描写等	【復習】ST国試過去問を通して関連キーワードの理解を深める。 【レポート課題】「技能学習」の測定結果をまとめ、考察する。	60分 120分
7	言語獲得と概念過程 ・言語の獲得 ・言語と概念形成 ・言語と思考 ・言語と脳機能 (脳機能画像)	講義	【予習】言語学習の過程を発達心理学等の教科書で確認しておく。 【復習】ST国試過去問を通して関連キーワードの理解を深める。	60分 120分
8	言語障害 ・失語症 (Wernicke型、Broca型) ・失読・失書 (alexia and agraphia) ・学習障害 (learning disability; LD) 学習理論の医療・福祉への応用	講義 DVD教材使用	【予習】言語学習及び言語障害のメカニズムを脳科学の観点から確認する。【レポート課題】 「言語障害への支援」方法を広く科学的観点から提案する。	60分 120分

【科目名】		認知心理学		【担当教員】	大矢 薫
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s142	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～金、火除く)	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
言語聴覚士国家試験の出題範囲となっている、「感覚」「知覚・認知」「記憶」「思考・知識」「言語」の内容について主に解説する。講義が中心となるが、適宜、上記の内容の実験等も紹介し、その実験を体験する機会も設ける。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・ 毎回資料を配布します。重要な用語等について、解説を聴きながらノートにとってください。テスト答案とレポートの返却：他に支障がない限り返却します。					
・ 生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。生成AIの出力結果は、その内容によっては著作権を侵害する可能性があります。また、個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意するようにしてください。					
【講義概要】					
(目的)					
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）について種々の理論を基に理解し、それらの機序及び障害について学ぶ。当該科目と学位授与方針等との関連性；R-1, 2, 3					
(方法)					
毎回の授業において資料を配布し、その資料に基づいたパワーポイントを使用して授業を進める。					
【一般教育目標 (GIO)】					
人の情報処理の過程（感覚・知覚・認知・思考等）の機序及びその障害について学ぶことで、知覚や認知関わる心理現象を科学的な視点で考察することができる。					
【行動目標 (SB0)】					
人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
授業資料を毎回配布します。					
【参考書】					
箱田 裕司編 『知覚・認知心理学』 遠見書房 (2,600円＋税)					
森 敏昭他『グラフィック認知心理学』 サイエンス社 (2,400円＋税)					
御領 謙他『最新 認知心理学への招待 心の働きとしくみを探る』 サイエンス社 (2,950円＋税)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・ 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。					
・ 小レポートと定期試験を実施する。					
・ 小レポートのフィードバック・解説を他に支障のない範囲で行う。					
・ 出席点は評価に含みません。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	30	15						45
	思考・推論・創造の力	30	15						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	感覚	講義	講義プリントの復習 感覚の種類、構造、特性についてまとめる	1 2 0
2	感覚の測定（１）	講義	講義プリントの復習 刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異についてまとめる	1 2 0
3	感覚の測定（２）	講義	講義プリントの復習 調整法、極限法の意味についてまとめる	1 2 0
4	感覚の測定（３）	講義	講義プリントの復習 恒常法、マグニチュード推定法についてまとめる	1 2 0
5	視知覚と聴知覚	講義	講義プリントの復習 明るさや色、奥行き知覚および聴覚の仕組みについてまとめる	1 2 0
6	知覚の発達	講義	講義プリントの復習 乳幼児期からの種々の知覚の発達のプロセスについてまとめる	1 2 0
7	知覚の障害	講義	講義プリントの復習 知覚の障害の概要についてまとめる	1 2 0
8	記憶（１）	講義	講義プリントの復習 記憶の種類、メカニズムについてまとめる	1 2 0

9	記憶（2）	講義	講義プリントの復習 記憶の忘却のメカニズムについてまとめる	1 2 0
1 0	注意	講義	講義プリントの復習 選択注意や注意の制御についてまとめる	1 2 0
1 1	概念と言語	講義	講義プリントの復習 「概念」とは何かということと、 「概念」と言語との関連をまとめる	1 2 0
1 2	問題解決・推論・意思決定	講義	講義プリントの復習 人の問題解決行動の背後にある原理についてまとめる	1 2 0
1 3	認知と感情、メタ認知	講義	講義プリントの復習 感情表出にかかわる認知の特徴およびメタ認知の内容についてまとめる	1 2 0
1 4	認知の個人差	講義	講義プリントの復習 認知の個人差が生じる機序についてまとめる	1 2 0
1 5	まとめ		これまでの講義プリントの復習	1 2 0

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	50	20						70
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	心理測定法とは	講義	心理測定法の概要、意義について理解できる	1 2 0
2	測定の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度）	講義、演習	4つの尺度水準の違いを説明できる	1 2 0
3	精神物理学的測定法（１）（刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異）	講義、演習	刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異の意味を説明できる	1 2 0
4	精神物理学的測定法（２）（調整法、極限法）	講義、演習	調整法、極限法の意味、またその実際を説明できる	1 2 0
5	精神物理学的測定法（３）（恒常法、マグニチュード推定法）	講義、演習	恒常法、マグニチュード推定法の意味、またその実際を説明できる	1 2 0
6	恒常誤差	講義	さまざまな恒常誤差の意味を説明できる	1 2 0
7	妥当性と信頼性	講義	妥当性と信頼性の意味を説明できる	1 2 0
8	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	1 2 0

【科目名】		医学概論		【担当教員】	高橋 明美
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s144	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金 8:00-18:00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
現在の臨床医学を学ぶ上で基礎となる科目である。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・授業中にプリントを配布し、それに基づいて講義を進めます。 ・レポートは生成AIの使用は認めません。					
【講義概要】					
(目的)					
現在の医療の仕組みを理解し、リハビリテーション分野だけでなく、医学及び医療に携わる専門職業人として、医の本質や医の倫理について理解を深め、幅広い視野を持った医療従事者としての基礎知識や倫理観を身に着ける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。					
(方法)					
健康の概念や、疾病、傷害の概念を中心に、医学の発展や将来などについて、講義を行う。 試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却する。					
【一般教育目標 (GIO)】					
医学の目指すものは何かを考え、生命の尊厳性、神秘性を実感してもらう。 健康がどのように障害され、どうしたら予防や回復が図れるか、理解を深める。					
【行動目標 (SB0)】					
医学の本質を説明出来る。					
【教科書・リザーブドブック】					
プリントを配布する。					
【参考書】					
特になし。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					
成績評価は、レポートとその他学修に取り組む姿勢などを総合的に評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			70					70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	医療の歴史と倫理問題の提起	講義	予習：これまで学んだ関連領域の知識の整理 復習：配布プリントで再確認	90 90
2	生命倫理と研究倫理	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
3	医療倫理と原則	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
4	臓器移植と脳死における倫理問題	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
5	健康科学概論 人間機能・形態学概論	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
6	人間疾病・治療学概論Ⅰ	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
7	人間疾病・治療学概論Ⅱ	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
8	社会・環境人間健康学概論	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90

【科目名】		解剖学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s145	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 火曜の15：30～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
大学院言語聴覚障害コースに在籍している者。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
適宜レポートなどを指示することがある。提出されたレポートは各自にフィードバックを行い、その後の学習に役立てる。言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。					
【講義概要】					
(目的)					
医学、医療について学ぶため解剖学、形態学について科学的に学ぶ。さらに頭頸部を中心に骨と軟骨・筋・神経系の領域を扱う。それぞれがどのように成り立ち、どのような機能を担っているかを理解する。咀嚼・嚥下・発声の動作と骨や筋そして神経がどのように関係するのか学ぶ。専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
(方法)					
医学のうち、発声発語に関する器官を中心にその構造、働きを学ぶ。					
講義形式で行い、適宜指示して発言を求める。					
【一般教育目標 (GIO)】					
発声発語に関する器官の構造と働きを全身との関連の中で理解する。					
【行動目標 (SB0)】					
発声発語のプロセスを解剖学的観点から説明することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に定めない					
【参考書】					
適宜指示する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価は、レポート100%で評価を行う。成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。レポートの内容と受講態度、発言力などを総合的に判断する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	人体の構成と細胞、組織	講義	講義内容の復習	220分
2	骨格系と筋系	講義	講義内容の復習	220分
3	神経系	講義	講義内容の復習	220分
4	循環器系	講義	講義内容の復習	220分
5	呼吸器系	講義	講義内容の復習	220分
6	消化器系	講義	講義内容の復習	220分
7	泌尿生殖器系と内分泌系	講義	講義内容の復習	220分
8	発生	講義	講義内容の復習	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	60		5					65
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	興奮性組織 (神経・筋)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
2	体液、体液の循環 (体液、血液、心臓、血液循環、循環調節)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
3	呼吸 (呼吸、ガス交換、呼吸の調節)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
4	感覚機能	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
5	運動機能	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
6	自律機能、脳と行動 (情動、睡眠、学習、言語)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
7	消化と吸収	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
8	口腔生理学 (口腔感覚、顎運動、咀嚼、嚥下、唾液)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分

【科目名】		病理学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s147	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 火曜の15：30～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
病理学は基礎医学の学問として全員受講すること。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・解剖学、生理学の知識を基盤としているため、これらの科目を受講していることが望ましい。 ・言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
【講義概要】					
(目的)					
医療では予防、診断、治療、リハビリテーションが重要であるが、病気の原因は診断に不可欠である。この診断に欠かせないのが病理学である。病理学は組織診および細胞診、病理解剖から成り立っている。本講義では、体内の異常を調べ、病気の原因および病気になる機序を研究する学問を学ぶ。特にリハビリテーションの対象となる疾患については踏み込んで学修する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う					
(方法)					
スライドや配布資料、教科書などを用いて講義を行います。試験問題（再試験問題除く）は返却します。					
【一般教育目標(GI0)】					
・疾病の一般的变化を理解できる。 ・病理学的所見から病態を推測することができる。 ・疾患の構造基本単位が、遺伝子、蛋白質、細胞、組織、器官、そして個体の階層にあり、相互に密接な関連のあることを理解する。					
【行動目標(SB0)】					
病因によって退行性・進行性病変、代謝異常、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍、先天異常など、違った疾病を発症することを解説する。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 病理学 医学書院 4,968円					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価は、本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 ・成績評価は、レポート100%とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	病理学の概要、病因論	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
2	退行性病変、進行性病変	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
3	代謝異常	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
4	循環障害	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
5	免疫	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
6	炎症、感染症	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
7	腫瘍	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
8	老化・先天異常・奇形	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分

【科目名】		小児科学	【担当教員】	押木 利英子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s148	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	oshiki@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 月、木 13:30～17:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・教科書「小児科学」を予習しておくこと (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義には積極的に理解するよう努力すること ・グループ課題について積極的に情報収集を行うこと ・試験結果は必要に応じて解説を行う ・レポートは他に支障のない限り返却する				
【講義概要】 (目的) 患者に対して聴覚言語士として療育を行うに必要な基礎知識を理解する必要がある。小児科学や小児リハビリテーションについて解説し、その重要性を理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A1, 2 当該科目と学位授与方針等との関連性；S2 (方法) ・主として教科書と一部の配布資料を使用して講義を行う。 ・複数回、グループ課題の取り組みを行い、グループ発表を実施する。				
【一般教育目標 (GIO)】 ・言語聴覚士が治療を行うに必要な小児科学の基礎知識を修得する。 【行動目標 (SB0)】 1) 小児の成長・発育・発達について説明できる。 2) 胎児期・周産期・新生児期の定義とその問題について説明できる。 3) 各種疾患の説明と小児リハビリテーションの概要が説明できる。 4) 療育体制とその意問題点について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】 富田豊編集「小児科学」第5版 医学書院 2018年 4200円＋税				
【参考書】 ・特になし ・必要に応じて参考資料（プリント）を配布する。				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験及びレポート・発表点により総合的に行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		20	10				100
評価 指標	取り込む力・知識	60		10					70
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
第1回	小児科学概論 1) 小児の成長・発育・発達 2) 栄養と摂食 3) 小児保健	講義	予習：教科書P1～27を読む	30分
第2回	小児の発達 1) 粗大運動発達 (腹臥位、背臥位、座位、立位)	講義	予習：配布資料を読む	30分
第3回	小児の発達 2) 巧緻運動発達 3) 言葉の発達 4) 遊びの発達	講義、演習	予習：配布資料を読む * 事前に提示された課題を学習し、 まとめる	90分
第4回	新生児・未熟児疾患 1) 胎児期・周産期・新生児期の定義と分類 2) 新生児の評価と問題 3) 代表的な中枢神経障害とリハビリテーション	講義	予習：教科書P38 ～56を読む	30分
第5回	先天異常と遺伝病 1) 遺伝と病気 2) 染色体異常と先天奇形 3) 代表的な疾患とリハビリテーション	講義	予習：教科書P58 ～68を読む	30分
第6回	神経・筋・骨系疾患 1) 脊髄性疾患 2) 末梢神経性疾患 3) 筋疾患 4) 骨・関節疾患	講義	予習：教科書P108 ～118を読む	30分
第7回	発達遅滞を伴う疾患 1) 脳性麻痺 2) 知的障害・精神遅滞 3) 言語発達遅滞発達障害	講義・演習	予習：配布資料を読む * 事前に提示された課題を学習し、 まとめる	90分
第8回	重症心身障害児 1) 定義およびその問題 2) 療育体制 まとめ	講義・演習	教科書P213 ～218を読んでおくこと * 学習したノート、資料を整理する	90分

【科目名】耳鼻咽喉科学		【担当教員】高橋 圭三
【授業区分】専門科目	【授業コード】s149	(メールアドレス) takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】後期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 火曜の15:30～
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 耳科学、鼻科学、咽頭科学を学び、各病態について理解する。耳科学では、平衡感覚に関連する解剖、生理、めまいや眼振などについても理解を深める。鼻科学や咽頭科学でも、解剖・生理・病態を学ぶ。 この科目を履修するには、聴覚医学を修得していることが望まれます。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) <ul style="list-style-type: none"> ・小テストを返却後、解答の解説を行います。 ・試験問題（再試験問題除く）は返却します。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 ・言語聴覚士国家試験受験に必要な科目です。 		
【講義概要】 (目的) 耳鼻咽喉科学領域（耳科学・鼻科学・口腔科学・咽喉科学）の障害で耳鼻咽喉科学領域の各器官の解剖（構造）・生理（機能）、さらに病態生理を理解することを目的とする。また各論では各疾患毎の病態生理、そしてそれらに対する検査やリハビリテーションなどに関しての言語聴覚士として必要な事項について学習する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う		
(方法) 耳鼻咽喉科学領域について講義を通して学ぶ。また各論では各疾患毎の病態生理、検査やリハビリテーションなどに関して学習する。		
【一般教育目標 (GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・耳鼻咽喉科学領域の各器官の構造・機能・病態について理解を深める。 ・各疾患の病態生理を理解し、検査やリハビリテーションなどについて学ぶ。 		
【行動目標 (SB0)】 <ul style="list-style-type: none"> ・耳鼻咽喉科学領域の各器官の構造・機能を説明できる ・各疾患の病態生理を理解し、それに関わる検査を説明できる 		
【教科書・リザーブドブック】 特にありません。		
【参考書】 鳥山 稔・『言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学』医学書院，2002 年．¥3,990		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、記述式試験100%とする。 ・成績評価基準は、本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	聴覚系の機能構造病態の確認	講義	復習：音とは何か、音の高さ、強さ、大きさ、人間の聴覚、動物の聴覚について	220分
2	外耳の病態	講義	復習：外耳の構造、機能、音響増幅効果	220分
3	中耳の病態	講義	復習：中耳音響インピーダンス、面積比、てこ比、キャンセルエフェクト、各種の中耳炎、鼓膜穿孔による難聴	220分
4	内耳の病態	講義	復習：内耳の構造、内・外リンパ液、進行波、有毛細胞、外膜、蝸牛遠心性神経、求心性神経、前庭、三半規管	220分
5	後迷路～中枢の病態	講義	復習：後迷路性難聴、聴覚伝導路、障害部位による語音明瞭度の違い	220分
6	前庭、三半規管の機能構造	講義	めまいを起こすメカニズム、前庭、三半規管の構造、機能	220分
7	めまい、眼振	講義	眼振の種類、眼振を起こすメカニズム	220分
8	鼻科学	講義	鼻の構造、機能、アレルギー疾患、風邪症候群	220分

【科目名】		形成外科学		【担当教員】	小野 和宏
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s150	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k-ono@dent.niigata-u.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 授業終了後に教室で質問を受付ける	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
障害への配慮が必要な学生は事前に相談することを推奨します。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
生成系AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。					
【講義概要】					
(目的)					
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
教科書を使用し体系的に講義する。特に言語障害が伴う外傷や疾病を中心に教授する。また、毎回の授業の最後に小テストを行い、その回答について解説する。なお、学生からの質問を重視し、質疑応答を行い、理解が深まるように授業を進める。試験・レポートのフィードバック方法：毎回の授業の最後に小テストを行い、その解答について解説する。					
【一般教育目標 (GIO)】					
適切なリハビリテーション医療を行うために、言語聴覚士に求められる知識・技能を身につける。					
【行動目標 (SB0)】					
・創傷の治癒過程を説明する。 ・各種組織移植術について説明する。 ・頭頸部外科手術に伴う障害について説明する。 ・瘢痕とケロイドについて説明する。 ・顔面外傷、熱傷、潰瘍について説明する。 ・顔面神経麻痺について説明する。 ・口唇口蓋裂をはじめとした頭蓋顔面領域における先天異常について説明する。 ・自ら疑問点を見出し、教員との議論を通じて、疑問点を解決する。					
【教科書・リザーブドブック】					
教員が準備した資料を配布する。教科書は下記を使用する。 平林慎一監修, 鈴木茂彦・岡崎睦編集『標準形成外科学 第7版』医学書院 (5,800円+税)					
【参考書】					
必要な場合は、授業時に教員が指示する。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 定期試験(70%)、毎回の授業の最後に行う小テスト(20%)、質疑応答などの授業態度(10%)により評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	20					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	70	20						90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	創傷治癒 遊離皮弁、有茎筋皮弁、遊離組織移植	講義	予習：教科書第1章「損傷・創傷治癒」第2章「組織移植術」を読んでまとめること。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	180分
2	頭頸部外科手術に伴う障害 瘢痕とケロイド	講義	予習：教科書第7章「再建外科」5章「瘢痕とケロイド」を読んでまとめること。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	180分
3	顔面外傷 顔面神経麻痺	講義	予習：教科書第4章「顔面外傷・顔面骨折」第7章「顔面神経麻痺」を読んでまとめること。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	180分
4	潰瘍 熱傷	講義	予習：教科書第6章「難治性潰瘍・褥創」第4章「熱傷」「その他の外傷」を読んでまとめること。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	180分
5	先天異常	講義	予習：教科書第3章「先天異常概論」を読んでまとめること。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	180分
6	口唇口蓋裂	講義	予習：教科書第3章「口唇・口蓋」を読んでまとめること。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	180分
7	口唇口蓋裂以外の頭蓋顔面奇形	講義	予習：教科書第3章「頭蓋・顔面」「耳介」を読んでまとめること。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	180分
8	まとめと質疑応答	講義・討議	予習：これまで学習した教科書の内容を見直しておくこと。 復習：これまで小テストの問題を見直してその内容を深く理解すること。	180分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語神経学入門Ⅰ 神経コミュニケーション障害の研究における最近の功労者	講義・PBL	予習・復習	220
2	言語神経学入門Ⅱ 言語に対する脳科学の発展	講義・PBL	予習・復習	220
3	神経系の構造Ⅰ コミュニケーションにおけるヒトの神経系、脳の保護と栄養摂取	講義・PBL	予習・復習	220
4	神経系の構造Ⅱ 末梢神経系 脳への血液供給 神経構造の一般原理	講義・PBL	予習・復習	220
5	発語と聴覚の神経感覚機構 体性感覚 口腔感覚の解剖学 視覚系	講義・PBL	予習・復習	220
6	発語の神経運動支配 錐体路系 皮質延髄路 下位および上位運動ニューロン	講義・PBL	予習・復習	220
7	脳神経Ⅰ 脳神経の起源 嗅覚と視覚の脳神経	講義・PBL	予習・復習	220
8	脳神経Ⅱ 言語と聴覚のための脳神経 脳神経の協調：嚥下の働き	講義・PBL	予習・復習	220

【科目名】		音声医学	【担当教員】	大平 芳則
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s166	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	y.ohdaira@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 未定
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 基本的に言語聴覚障害コースの学生を対象とする。言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・発声発語器官の解剖学・生理学・神経学、ならびに発声に関する音響学を理解していること。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。				
【講義概要】 (目的) 声の生成に関与する中枢神経系・末梢神経系およびそれに関連する各器官について、医学的知識とともに言語聴覚士が専門家として実施する訓練治療手技を身につけることを目的とする。 (方法) 呼吸と発声のメカニズム、病態、評価、治療法について、講義や演習を通して学ぶ。 ・試験問題（再試験問題除く）は返却する。				
【一般教育目標 (GIO)】 ・音声（発声）の仕組みを理解し、音声障害のほか、摂食・嚥下障害や運動障害性構音障害にも応用できる知識を修得する。 ・気管切開カニューレや無喉頭音声時の仕組みに関する知識を修得する。 ・音声障害に対する適切な聴覚的判定力と音声治療の施行技能を修得する。 【行動目標 (SB0)】 ・発声のメカニズムを説明できる。 ・発声の仕組みを動画としてイメージできる。 ・主な病的音声の評価法の種類と特徴について説明ができる。 ・主な音声（発声）障害の種類と原因について説明ができる。				
【教科書・リザーブドブック】 なし。 資料を配付します。				
【参考書】 廣瀬肇『音声障害治療学』医学書院 2018年 5,000円＋税 刈安 誠・城本修編著『言語聴覚療法シリーズ14 改訂 音声障害』建帛社 2012年 3,100円＋税 城本修・原由紀『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学』医学書院 2021年 5,000円＋税				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート100%とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リエンション 発声器官の解剖・生理について 発声のメカニズムと声の特徴について	講義	予習：以前に学んだ声に関する授業の内容を復習しておく 復習：配布資料と授業中のノートの確認	予習100分 復習120分
2	声の異常について 喉頭の疾患と医学的な分類について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
3	声の評価、音声障害の診療について 言語聴覚士が行える検査と治療 耳鼻科医が行う検査と治療	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
4	音声障害の治療について 医学的治療法と保存的治療法 気管切開・人工呼吸器について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
5	各種音声治療の実際① 問診による情報収集 声の衛生指導について	講義 演習	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
6	各種音声治療の実際② 対症療法的治療法について 共鳴強調訓練について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
7	各種音声治療の実際③ 発声機能拡張訓練について アクセント法について LSVTについて	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
8	喉頭摘出の音声リハビリテーション 喉頭の摘出と無喉頭音声について 無喉頭音声の訓練法について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分

【科目名】		聴覚医学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s153	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 火曜の15：30～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
聴覚に関する解剖学、生理学を学びます。また、病態、特に難聴に関連する解剖、生理学的な異常についても学んでいきます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<ul style="list-style-type: none">・言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
【講義概要】					
(目的)					
聴覚器官の解剖（外耳・中耳・内耳・聴覚路・聴覚中枢等）および生理（集音・伝音・感音・聴覚中枢等）、そして全般的な聴覚学、さらに各疾患について学ぶことを目的とする。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う					
(方法)					
配布資料、教科書を使用して、主にスライドを使って講義します。適宜、黒板にも図示しますので、メモやスケッチをとってもらいます。					
<ul style="list-style-type: none">・小テストを返却後、解答の解説を行います。・試験問題（再試験問題除く）は返却します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
<ul style="list-style-type: none">・聴覚器官の構造・機能ついて理解を深める。・伝音難聴、感音難聴、混合難聴について理解し、聴覚器官の構造・機能の異常との関連を理解することができる。					
【行動目標 (SB0)】					
<ul style="list-style-type: none">・外耳、中耳、内耳、後迷路、中枢の解剖および生理について学ぶ。・難聴を理解するために、純音聴力検査やオーディオグラムについても学ぶ。・伝音難聴、感音難聴、混合難聴を理解し、純音聴力検査や、聴覚器官の解剖・生理の異常と関連付けて理解できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特にありません。					
【参考書】					
山田弘之 佐場野優一・『聴覚障害 I 基礎編 第5版』建帛社，2005 年．¥2,520					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<ul style="list-style-type: none">・成績評価は、記述式試験100%とする。・成績評価基準は、本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	身近な音に関する知識 音の高さの聴覚範囲 聴覚器官の全体像	講義	復習：P. 4～9、配布資料	220分
2	聴器の構造と機能 外耳の構造と機能	講義	復習：P. 4～9、配布資料	220分
3	聴器の構造と機能 中耳の構造と機能	講義	復習：P. 16～17、配布資料	220分
4	聴器の構造と機能 内耳の構造と機能	講義	復習：P. 18～29、配布資料	220分
5	聴器の構造と機能 後迷路と中枢	講義	復習：P. 18～29、配布資料	220分
6	難聴の種類（伝音難聴） 純音聴力検査、オーディオグラム	講義	復習：P. 42～45	220分
7	難聴の種類（感音難聴、混合難聴） 純音聴力検査、オーディオグラム	講義	復習：P. 42～45	220分
8	聴器の病態・難聴の原因 小テスト	講義 小テスト	復習：P. 16～21、P. 74～129	220分

【科目名】		言語学	【担当教員】	道関 京子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s154	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kei.doseki@gmail.com
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メール
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は言語聴覚士の国家試験受験に必要な科目である。履修に際しては、音声学を復習しておく。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・範囲が膨大であるため欠席・遅刻するとその内容は分からないままになる。必ず事前連絡し対処を相談すること。 ・毎回、前回の確認テストを行うため、復習を欠かさないこと。 ・生成系 AI の利用を、授業内、予復習、成果物（レポート等含む）作成において全面的に許可する。しかしAIの記述が正確でなければならず授業内および復習時に確認すること。				
【講義概要】 (目的) ・言語学とはどのような研究領域であるのかを知る。 ・音声言語が持っている一般的な特徴とともに、音声表象単位である音韻論、意味単位である形態意味論、文を構成する統語論、そして談話研究の語用論について理解する。 ・言語学上の日本語の特徴、言語聴覚臨床において言語学の知識をどのように用いていくかを把握する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) ・講義を中心に行う。理解しやすいようにプリント資料を使い講義を進める。 ・IPA音声表記やIC分析などの講義では、必ず実習を行う。 ・毎回、前回の講義内容の確認テストを行う。 ・確認テスト・レポートのフィードバックは、講義内で解説するが、レポートはコメントを付して返却する。				
【一般教育目標 (GIO)】 臨床で必須の言語記録・問題点の摘出・指導を障害ごとに的確に行うために、言語学の基礎および日本語学の基礎を身につける。 【行動目標 (SB0)】 1) STが言語学を学ぶ目的を知る。2) 音声学と音韻論の違いと表記の違いを習得する。3) 日本語形態論について理解する。4) 様々な文法論を知る。5) 日本語文の機能や形態現象・統語現象を知る。6) 日本語の特徴（文字・敬語・語種）を理解する。7) 意味論（意味と意義、意義の諸相）を理解する。8) 語用論―関連性理論を知る。9) 言語臨床へ言語学の適応ができる。				
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず、毎回プリントを配布する。				
【参考書】 渡辺実、日本語概説、岩波書店、1996年、¥3,080（税込） Lyons J: Language and Linguistics. Cambridge University Press, 1981.				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績は、毎回の講義中に行う確認テスト50%、レポート50%で評価する。成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			50	50					100
評価 指標	取り込む力・知識		25	25					50
	思考・推論・創造の力			25					25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		25						25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語学とは何か。 ・ S T が言語学を学ぶ目的 ・ 言語の一般的特徴 (諸性質と諸単位) ・ 日本語学と国語学の違い	講義	言語学とは何かを論理的に説明できるよう復習する 音声学の復習を行う	180分
2	・ 前回の確認テストと解説 ・ 音声学復習 (1) : 声や構音生成の器官	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 構音様式や構音器官の名称を確認する	180分
3	・ 前回の確認テストと解説 ・ 音声学復習 (2) : IPA表記	講義・討議・演習	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 音声のIPA表記を練習する	180分
4	・ 前回の確認テストと解説 ・ 音韻論 (1) : 音素と音韻特徴、音韻規則、モーラ (拍)、音節およびその変化	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 音韻論をまとめる	180分
5	・ 前回の確認テストと解説 ・ 音韻論 (2) : 超文節の特徴	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 超文節特徴をまとめる	180分
6	・ 前回の確認テストと解説 ・ 意義一形態論 (1) : 形態素とプロセス (派生・複合・屈折) 形態論、接頭辞、接尾辞、連濁、異形態・形態音韻論、単語 (標識)	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 形態論 (1) についてまとめる	180分
7	・ 前回の確認テストと解説 ・ 意義一形態論 (2) : 言語の種類、孤立語・屈折語、概念マトリックス (上位概念と下位概念)、比喩、同音異義語	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 形態論 (2) についてまとめる	180分
8	・ 前回の確認テストと解説 ・ 意義一形態論 (3) : 品詞とその分類、述部の動態	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 形態論 (3) についてまとめる	180分

9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の確認テストと解説 ・ 日本語の特徴：成立ち、語彙の特徴、文型の特徴（語順、後置詞）、動詞変形や受け身文の特徴、文字（漢字・かな） 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 日本語の特徴や成り立ちについてまとめる 	180分
1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の確認テストと解説 ・ 統語論(1)：文の機能、語順、動詞の膠着形態（ヴォイス・アスペクト・モダリティら）、助詞（格の意味、係助詞）、副用語 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 統語論(1)をまとめる 	180分
1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の確認テストと解説 ・ 統語論(2)：生成文法論 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 統語論(2)生成文法をまとめる 	180分
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の確認テストと解説 ・ 統語論(3)：文の種類、単文の構造（格の理解・N項述語・多重主語文）、複文（従属節と共起可能な文法要素）、IC分析 	講義・討議・演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 統語論(3)をまとめる 	180分
1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の確認テストと解説 ・ 意義-意味論：意味と意義、意義素性、意義の諸相、共起制限、敬語 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 意義-意味論をまとめる 	180分
1 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の確認テストと解説 ・ 語用論(1)：狭義の言語学と語用論、言語行為論、関連性理論 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 語用論(1)をまとめる 	180分
1 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ確認テストと解説 ・ 語用論(2)：臨床の言語学 ・ 言語聴覚症状の言語学的視点 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する ・ 臨床の言語学をまとめる 	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				50				50
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・音声学とは何か：音声学の3部門 ・音声生成（発声発語）器官の名称と機能	講義	・授業内容の復習をする。	180分
2	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・国際音声記号 IPA	講義	・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。	180分
3	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・日本語音声をIPAで記述する（1）	講義 演習	・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。	180分
4	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・日本語音声をIPAで記述する（2）	講義 演習	・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。	180分
5	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・日本語音声をIPAで記述する（3）	講義 演習	・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。	180分
6	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・注意すべき日本語の発音	講義	・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。	180分
7	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・母音の無声化	講義	・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。	180分
8	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・モーラ、音節、超分節素	講義	・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。	180分

9	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音響音声学 音のスペクトル (1) 周期音 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。 	180分
1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音響音声学 音のスペクトル (2) 非周期音 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。 	180分
1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音響音声学 音源フィルター理論 (1) 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。 	180分
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音響音声学 音源フィルター理論 (2) 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。 	180分
1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音声学と言語聴覚臨床 	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。 	180分
1 4	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・総合確認テストおよび解説 	講義 課題解決型学習	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。 	180分
1 5	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・課題発表 	課題 課題解決型学習	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストで理解不十分だった箇所を復習する。 ・授業内容の復習をする。 	180分

【科目名】		言語発達学		【担当教員】	内山 千鶴子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s156	(メールアドレス) c.uchiyama@nur.ac.jp (オフィスアワー) 随時メールで質問・相談に応じます	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 毎回教科書や資料の予習と前回授業の復習を行ってください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 双方向授業のため、問題意識・課題をもって積極的な意見や疑問のやりとりを行いましょう。 生成AIの活用は認めますが、どのように使用したか明確にしてください。特に、レポートでは生成AIによる意見とご自分の意見を明記してください。					
【講義概要】 (目的) 言語発達は生物学的・生得的な要因と環境的・経験的要因が相互に作用し、複雑に絡み合いながら、発達していくことを知り、これを説明する多様な理論・研究から、前言語期からのコミュニケーション発達、乳幼児期、児童期への言語発達を理解する。また、その障害について理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性: 専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を養う。 (方法) 教科書を使用して、新生児期から児童期以降の言語発達を、コミュニケーション発達、音韻発達、語彙発達、文法発達、読み書きの発達という段階に従って解説する。これらに加え、理論や最近の研究、言語発達障害についても解説する。試験は筆記試験であり、コメントを付けて返却する。					
【一般教育目標 (GIO)】 誕生からことばを獲得していくプロセスを、理論や研究等を踏まえて理解できる。 【行動目標 (SB0)】 誕生からことばを獲得していくプロセスを、理論や研究等を踏まえて説明できる。 前言語期、語彙獲得期、文獲得期、成人期の言語の特徴を説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】 言語学・言語発達学 岩田一成他編 メジカルビュー社 4,400円					
【参考書】 よくわかる言語発達 岩立志津夫他編、ミネルヴァ書房、2,640円 ひと目でわかる発達 渡辺弥生他編、福村出版、2,640円					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従います。 成果発表を課する。成績は、講義中の小テスト50%、成果発表50%の割合で評価します。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語発達を説明する理論	講義	教科書P102ー114を読んでおく。	220
2	前言語期の発達	講義	教科書P115ー131を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	220
3	1〜2歳の言語発達	講義	教科書P132ー152を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	220
4	幼児期の言語発達	講義	教科書P153ー170を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	220
5	学童期の言語発達	講義	教科書P171ー186を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	220
6	成人期の言語発達	講義	配布資料を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	220
7	言語発達の障害	講義	配布資料を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	220
8	試験とフィードバック	講義	教科書、配布した資料、文献を読んでおく。総復習をする。	220

【科目名】		音響学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s157	(メールアドレス) takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー)火曜の15：30～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・ 予習・復習をしっかりと行うこと。8コマと少ないものの、1コマ1コマ非常に重要なため、欠席しないこと。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・ 言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。					
・ 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
【講義概要】					
(目的)					
音の一般的性質を知るとともに、音声の基本的特徴について学び、国家試験に対応できる知識を習得する。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う					
(方法)					
まず、音響学を学ぶうえで必要な基礎知識を復習する。					
試験問題（再試験問題除く）は返却します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
音の物理学的側面を理解するとともに、母音の生成の仕方を知る。					
音の種類とその構造（スペクトル）を理解する。					
音をデジタル化する場合の手順と問題点を理解する。					
スペクトログラムを見て、母音、破裂音、摩擦音の音響学的な特徴を知り、区別ができる。					
【行動目標 (SB0)】					
音の基本的性質についての演算ができる。					
母音と破裂音、摩擦音の音響学的性質を説明できる。					
純音、周期的複合音、非周期的複合音のスペクトル構造を説明できる。					
音のデジタル化に必要な手順を説明できる。					
簡単なスペクトログラムが読める。					
【教科書・リザーブドブック】					
吉田友敬 『言語聴覚士の音響学入門』 海文堂					
【参考書】					
・ 青木直史 『ゼロからはじめる音響学』 講談社					
・ 坂本真一、蘆原郁 『音響学を学ぶ前に読む本』 コロナ社					
・ 今泉敏 『言語聴覚士のための音響学』 医歯薬出版					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・ 成績評価は筆記試験100%とする。					
・ 成績評価基準は、本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	音響学を学ぶ前の基礎知識 指数、速さ・時間・距離、単位の接頭語	講義	配付資料の復習をすること	220分
2	音入門 波形、周波数、周期、振幅、波長、音速	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
3	音響スペクトル 純音、複合音、周期音、非周期音	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
4	音の物理的特性 屈折、反射、吸音、干渉、うなり、 ドップラー効果	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
5	音のデジタル化 標本化、量子化	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
6	音声学 母音と子音	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
7	音源フィルター理論 共鳴と母音の生成	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
8	スペクトログラム 母音、摩擦音、破裂音、その他の音声の特徴	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	聴覚心理学入門 ・聴覚心理学とは ・聴野 ・聴覚閾値	講義	復習：配布資料	220分
2	強さと大きさ ・音の強さと大きさの関係 ・等感曲線	講義	復習：配布資料	220分
3	大きさの単位、強さの弁別 ・ゾーンとフォン ・強さの弁別	講義	復習：配布資料	220分
4	高さの単位 ・メル 周波数の弁別 ・周波数の弁別	講義	復習：配布資料	220分
5	マスキング ・マスキングの定義 ・マスキングの効果 ・臨界帯域	講義	復習：配布資料	220分
6	音の持続時間と聴覚 ・持続時間と可聴性 ・聴覚疲労と聴覚順応	講義	復習：配布資料	220分
7	聴覚のさまざまな知覚現象 ・マガーク効果 ・結合音 ・両耳聴など	講義	復習：配布資料	220分
8	音声の知覚 ・ソースフィルタ理論 ・サウンドスペクトログラム	講義	復習：配布資料	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20				10	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	我が国の社会保障制度の変遷とその特徴	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
2	生涯を支える社会保障の全体像	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
3	社会保険の仕組み 年金制度の概要	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
4	言語聴覚療法の関係法規 言語聴覚士法①	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
5	言語聴覚療法の関係法規 言語聴覚士法②	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
6	介護保険の現状と課題	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
7	医療保険の概要	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
8	公的扶助 これからの社会保障のあり方	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分

【科目名】 リハビリテーション概論		【担当教員】 高橋 明美
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 2-13-0000-3	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・リハビリテーションとは、理学療法、作業療法、心理全専攻(リハビリテーション専門職)の学生にとり基本中の基本、不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席してください。 ・本科目は実務経験のある教員による授業科目です。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理士・臨床心理士の資格を持つ教員が、それぞれの立場からリハビリテーションやその分野における各専門職の役割などについて講じていきます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 小テストについては、返却します。 試験の解答については、原則返却しません。 予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーションに対する正しい理解と知識を学習し、専門職種としての基本的な姿勢や考え方を身につけ、臨床の場で活用できるようにする。このことにより、多職種がリハビリテーションについて共通の価値観を修得し、多面的な支援の提供ができることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1, 2, 3 (方法) 資料・教科書を用いて、体系的に学ぼう講義を進めます。特に、“リハビリテーションとは何か”その本質に触れ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ることを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史的変遷、障害者と障害のレベル、障害の測定・評価法などの実例を提示して進めます。		
【一般教育目標 (GIO)】 保健・医療・福祉に及ぶ広範囲なリハビリテーション分野を深く理解する。		
【行動目標 (SB0)】 1. リハビリテーションの理念、歴史的変遷について説明できる。2. 障害の概念や分類について説明できる。3. リハビリテーションの過程について説明できる。4. 各専門職の役割、チームアプローチについて説明できる。5. リハビリテーションを支える諸制度について説明できる。6. ICFに基づく障害の測定・評価方法について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
【参考書】 ①真柄彰, 他：リハビリテーション概論, 理工図書, 2017, ¥4700 (税別) ②上好昭孝, 他：医学生・コメディカルのための手引書, リハビリテーション概論, 改訂第3版, 永井書店, 2014, ¥3000 (税別)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。成績評価は、期末試験および小テスト、その他により総合的に評価する。 出席点は評価には含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	10					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1 前期	リハビリテーションの概念・理念、定義	講義 (高橋明美)	(予習) これまで学んだ関連領域の知識の整理 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
2 前期	疾病と障害の概念、分類	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
3 前期	リハビリテーションの過程 チームアプローチ	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
4 前期	リハビリテーションの諸段階、諸制度 理学療法概論	小テスト、講義 (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
5 前期	作業療法概論	講義 (長谷川裕)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
6 前期	言語聴覚療法概論	講義 (大平)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
7 前期	リハビリテーション心理概論	講義 (大矢)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90
8 前期	まとめ 試験	小テスト、講義 レポート (高橋明美)	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料を読むこと	90 90

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 言語聴覚士、言語聴覚障害とは	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
2	言語とコミュニケーション	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
3	言語聴覚障害学の種類、対象、原因	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
4	聞こえの障害	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
5	話しことば speechの障害 1	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
6	話しことば speechの障害 2	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
7	話しことば speechの障害（嚥下障害含む） 3	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
8	言語languageの障害 1	映画鑑賞	授業内容の復習 レポート作成	180分

9	言語 languageの障害 2	映画鑑賞 感想文作成	授業内容の復習 レポート作成	180分
10	高次脳機能障害	講義	講義の復習 レポート作成	180分
11	言語聴覚療法に関する動画・映画鑑賞	講義	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役割について学習する	180分
12	言語聴覚療法に関する動画・映画鑑賞	講義	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役割について学習する	180分
13	言語聴覚士に関する職業倫理	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
14	言語聴覚士の歴史	講義	授業内容の復習 レポート作成	180分
15	言語聴覚士に関する法律	講義 レポート作成	授業内容の復習 レポート作成	180分

【科目名】		言語聴覚障害診断学		【担当教員】	大平 芳則
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s162	(メールアドレス) y.ohdaira@nur.ac.jp (オフィスアワー) 未定	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	2	【コマ数】	15		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 実際の言語聴覚療法を行うのに必要な事柄を学ぶ。 この科目を履修するには、言語聴覚学総論を事前に修得していることが望まれる。 					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 言語聴覚士が行う「評価」に必要なこと	講義	該当箇所の配布資料の復習と、次の 領域の予習 レポート作成	180分
2	臨床の前に 臨床に必要なマナー、個人情報保護 面接技法	講義	該当箇所の配布資料の復習と、次の 領域の予習 レポート作成	180分
3	時期ごとの脳血管障害リハビリテーション リハビリテーションにおける各職種の役割 言語聴覚療法の流れ スクリーニング	講義	該当箇所の配布資料の復習と、次の 領域の予習 レポート作成	180分
4～9	失語症の基礎 失語症の臨床	講義	該当箇所の配布資料の復習と、次の 領域の予習 レポート作成	各180分
10～15	高次脳機能障害の基礎 高次脳機能障害の臨床	講義	該当箇所の配布資料の復習と、次の 領域の予習 レポート作成	各180分

【科目名】		言語発達障害学概論		【担当教員】	内山 千鶴子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s163	(メールアドレス) c.uchiyama@nur.ac.jp (オフィスアワー) メールで随時質問・相談に応じます	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	2	【コマ数】	15		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 毎回資料や参考書の予習と前回授業の復習を行ってください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 双方向授業のため、問題意識・課題をもって積極的な意見や疑問のやりとりを行いましょう。 生成AIの活用は認めますが、どのように使用したか明確にしてください。特に、レポートでは生成AIによる意見とご自分の意見を明記してください。					
【講義概要】 (目的) 1. 言語発達障害の概要と特徴を理解する。 2. 自閉症スペクトラム障害、知的障害、学習障害、特異的言語発達障害、注意欠陥多動性障害、脳性麻痺・重度重複障害の疾患概念、症状、評価・支援の基本を理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性: 専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を養う。 (方法) 1. 講義で学習した内容をまとめる。 2. 講義で学習した内容に関する文献を検索しまとめる。 3. まとめた内容に関する、質問や疑問、反論を発表し、討議する。 4. 討議した内容をまとめてレポートを作成する。 5. 学習した知識を活かしてリハビリテーションに活かす能力を培う。					
【一般教育目標 (GIO)】 自閉症スペクトラム障害、学習障害、特異的言語発達障害、注意欠陥多動性障害、脳性麻痺・重度重複、知的障害の疾患概念、症状、評価・治療を理解する。 <					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50			50				100
評価 指標	取り込む力・知識	25							25
	思考・推論・創造の力	25							25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				25				25
	学修に取り組む姿勢				25				25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	典型的な言語発達 ・言語・コミュニケーションとは何か ・前言語期の典型的な言語発達 ・語彙獲得期の言語発達 ・学童期の言語発達	講義	事前に資料を読んでおく。 学習後は典型的な言語発達に関して説明できる。	220
2	言語発達障害 ・言語発達障害の定義 ・言語発達障害の病態	講義	事前に資料を読んでおく。 学習後は言語発達障害について説明できる。	220
3	言語発達の評価 ・評価とは ・行動観察 ・検査 ・評価のまとめ、記録、報告	講義	事前に資料を読んでおく。 学習後は言語発達の評価について説明できる。	220
4	言語発達の指導と支援 ・指導・支援とは ・発達段階に即した支援 ・各種指導・支援の方法 ・指導の種類	講義	事前に資料を読んでおく。 学習後は言語発達の指導と支援について説明できる。	220
5	知的障害に基づく言語発達障害の評価と指導・支援 ・定義と診断基準 ・評価 ・指導と支援	講義	事前に資料を読んでおく。 学習後は知的障害の言語発達障害について説明できる。	220
6	特異的言語発達遅滞に基づく言語発達障害の評価と指導・支援 ・定義と診断基準 ・評価 ・指導と支援	講義	事前に資料を読んでおく。 学習後はの言語発達障害について説明できる。 提示された文献をまとめ、疑問点、反論を考える。	220
7	特異的言語発達障害に関する文献の発表と議論 ・文献に関する疑問と反論を討議する	講義と討議	学習後は議論内容を各自でまとめ、レポートを作成する。 事前に資料を読んでおく。	220
8	限局性学習障害に基づく言語発達障害の評価と指導・支援 ・定義と診断基準 ・評価 ・指導と支援	講義	事前に資料を読んでおく。 学習後は限局性学習障害の言語発達障害について説明できる。 提示された文献をまとめ、疑問点、反論を考える。	220

9	限局性学習障害に関する文献の発表と議論 ・ 文献に関する疑問と反論を討議する	講義と討議	学習後は議論内容を各自でまとめ。レポートを作成する。 事前に資料を読んでおく。	220
10	自閉症スペクトラム障害に基づく言語発達障害の評価と指導・支援 ・ 定義と診断基準 ・ 評価 ・ 指導と支援	講義	事前に資料を読んでおく。 学習後はスペクトラム障害の言語発達障害について説明できる。 提示された文献をまとめ、疑問点、反論を考える。	220
11	自閉症スペクトラム障害に関する文献の発表と議論 ・ 文献に関する疑問と反論を討議する	講義と討議	学習後は議論内容を各自でまとめ。レポートを作成する。 事前に資料を読んでおく。	220
12	注意欠如・多動性障害に基づく言語発達障害の評価と指導・支援 ・ 定義と診断基準 ・ 評価 ・ 指導と支援	講義	事前に資料を読んでおく。 学習後は注意欠如・多動性障害の言語発達障害について説明できる。 提示された文献をまとめ、疑問点、反論を考える。	220
13	注意欠如・多動性障害に関する文献の発表と議論 ・ 文献に関する疑問と反論を討議する	講義と討議	学習後は議論内容を各自でまとめ。レポートを作成する。 事前に資料を読んでおく。	220
14	脳性麻痺に基づく言語発達障害の評価と指導・支援 多職種との連携	講義	事前に資料を読んでおく。 学習後に脳性麻痺の言語発達障害と多職種連携について説明できる。	220
15	まとめと試験	講義	言語発達障害について概説できる。	220

【科目名】言語発達障害学各論		【担当教員】櫻井 晶、齋藤 武
【授業区分】専門科目	【授業コード】s164	(メールアドレス) haru-shien@outlook.jp
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】2	【コマ数】15	(オフィスアワー) 講義日に対応する。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 事前に指定した教科書の関連頁を読む。前講義の復習をする。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻、欠席、早退は学則に従う。 生成AIの利活用は否		
【講義概要】 (目的) 1. 言語発達障害児に用いられる各種検査の理論と実施方法、評価、支援法を理解する。 2. 障害特性や発達に応じた指導方法や教材を知り、子どもたちが楽しんで指導を受けることができる技能と指導計画、評価する能力を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性: 専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を養う。 (方法) 教科書と資料を使用し、代表的な言語発達障害（自閉症スペクトラム障害、学習障害、特異的言語発達障害、注意欠陥多動性障害、脳性麻痺・重度重複、知的障害）の疾患概念、症状、評価・治療の基本を概説する。		
【一般教育目標 (GIO)】 乳幼児から児童期の言語発達障害児への様々な言語・発達検査の概要と、有効な数種の指導方法を解説し、実際に検査や指導、教材制作の演習を行なう。 【行動目標 (SB0)】 子どもたちの発達や障害特性に適した指導をするための方法を知り、教材を制作し、指導方法を考えることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3章 深沢順一 藤野博 石坂郁代（編集）5,000円+税 参考書の書籍や資料から適宜配布する。		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 レポート成績(70%)及び授業の取り組み状況(30%)で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70				30	100
評価 指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	(復習) 言語発達学	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。	180
2	(復習) 言語発達障害の評価と診断	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	180
3	言語発達障害と関連疾患の評価と診断①	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
4	言語発達障害と関連疾患の評価と診断②	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
5	言語発達障害と関連疾患の評価と支援①	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
6	言語発達障害と関連疾患の評価と支援②	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
7	言語発達障害と関連疾患の評価と支援③	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
8	言語発達障害と関連疾患の評価と支援④	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180

9	脳性麻痺・重複障害①	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
10	脳性麻痺・重複障害②	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
11	医療ケア児支援①	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
12	医療ケア児支援②	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
13	医療ケア児支援③	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
14	地域支援と家族支援	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180
15	まとめ	講義	事前に配布した資料を読んでおく。	180

【科目名】言語発達障害学演習		【担当教員】櫻井 晶
【授業区分】専門科目	【授業コード】s165	(メールアドレス) haru-shien@outlook.jp
【開講時期】後期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 講義日に対応する。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 事前に検査に目を通しておく。 ※検査、訓練演習時は、身体接触を伴う場合があります。合理的配慮が必要な場合は事前に担当教員に連絡下さい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻、欠席、早退は学則に従う。 生成AIの利活用は不可		
【講義概要】 (目的) 1. 言語発達障害の臨床で使用されている代表的な検査の理論と方法を理解して正しく実施できる。 2. 検査結果の評価ができる。 3. 評価をもとに適切な訓練計画を立てることができる。 当該科目と学位授与方針等との関連性: 専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を養う。 (方法) 代表的な知能検査と発達検査の理論と方法を解説し、実際に用具を使って検査して結果を評価し、支援への活用を考える。臨床で用いられている複数の言語発達検査と知能検査の特徴や適応年齢を解説し、理解を進める。 代表的な支援方法を学習し、演習を行う。 ※学生同士、検査、訓練演習時は、身体接触を伴う場合があります。		
【一般教育目標 (GIO)】 言語発達障害の臨床で用いられる検査の理論と実施方法を理解し、正しく実施し評価し、適切な支援方法を考えることができる。 【行動目標 (SB0)】 各検査の特徴と適応年齢を理解し、症例に合った適切な検査による訓練計画を立てることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3章 深沢順一 藤野博 石坂郁代 (編集) 5,000円+税 参考書の中から必要な資料を配布する。		
【参考書】 各種検査の実施、結果評価についての資料。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポート成績 (70%) 及び授業の取り組み状況 (30%) で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70				30	100
評価 指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	小児用検査①	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
2	小児用検査①	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
3	発達障害児支援の見学	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
4	発達障害児支援の見学	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
5	発達障害児と関わり特性をつかむ	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
6	発達障害児と関わり特性をつかむ	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
7	評価を実施する	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
8	評価を実施する	演習	今まで学んだ検査について復習しておく	180

【科目名】		音声障害学	【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s166	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 火曜の15:30～
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 基本的に言語聴覚障害コースの学生を対象とする。言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・発声発語器官の解剖学・生理学・神経学、ならびに発声に関する音響学を理解していること。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。				
【講義概要】 (目的) 声の生成に関与する中枢神経系・末梢神経系およびそれに関連する各器官について、医学的知識とともに言語聴覚士が専門家として実施する訓練治療手技を身につけることを目的とする。 (方法) 呼吸と発声のメカニズム、病態、評価、治療法について、講義や演習を通して学ぶ。 ・試験問題（再試験問題除く）は返却する。				
【一般教育目標 (GIO)】 ・音声（発声）の仕組みを理解し、音声障害のほか、摂食・嚥下障害や運動障害性構音障害にも応用できる知識を修得する。 ・気管切開カニューレや無喉頭音声時の仕組みに関する知識を修得する。 ・音声障害に対する適切な聴覚的判定力と音声治療の施行技能を修得する。 【行動目標 (SB0)】 ・発声のメカニズムを詳細に説明できる。 ・発声の仕組みを動画としてイメージできる。 ・病的音声の評価法の種類と特徴について説明ができる。 ・音声（発声）障害の種類と原因について説明ができる。 ・音声（発声）障害に対して適切な治療法が選択でき、正しく指導できる				
【教科書・リザーブドブック】				
【参考書】 大森孝一編：言語聴覚士のための音声障害学。医歯薬出版、2015。 廣瀬 肇・『STのための音声障害診療マニュアル』インテリ出版、2008年。¥3,500（税別） 苅安 誠・城本修編著『言語聴覚療法シリーズ14 改訂 音声障害』建帛社、2012年。¥3,100（税別）				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価は、記述式試験100%とする。 ・成績評価基準は、本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リエンション 発声器官の解剖・生理について 発声のメカニズムと声の特徴について	講義	予習：以前に学んだ声に関する授業の内容を復習しておく 復習：配布資料と授業中のノートの確認	予習100分 復習120分
2	声の異常について 喉頭の疾患と医学的な分類について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
3	声の評価、音声障害の診療について 言語聴覚士が行える検査と治療 耳鼻科医が行う検査と治療	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
4	音声障害の治療について 医学的治療法と保存的治療法 気管切開・人工呼吸器について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
5	各種音声治療の実際① 問診による情報収集 声の衛生指導について	講義 演習	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
6	各種音声治療の実際② 対症療法的治療法について 共鳴強調訓練について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
7	各種音声治療の実際③ 発声機能拡張訓練について アクセント法について LSVTについて	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分
8	喉頭摘出の音声リハビリテーション 喉頭の摘出と無喉頭音声について 無喉頭音声の訓練法について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んでおく 復習：配布資料と授業集のノートの再確認	予習100分 復習120分

【科目名】		運動障害性構音障害学		【担当教員】	高橋 圭三、佐藤 厚
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s167	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	佐藤：satoatsu07@gmail.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 随時メールにて応じます。	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目の履修にあたっては、呼吸・発声・発語器官の解剖と神経・生理学的基板についての基礎知識が求められる。あらかじめ知識を整理しておくこと。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
各回講義内容について、参考図書などを使用して予習しておくこと。講義後は復習を必ず実施し、ポイントを整理するとともに、疑問点を明らかにしておくこと。講義後に課題を課すことがあるので、指定期間に提出すること。					
【講義概要】					
(目的)					
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 呼吸・発声・発語器官の機能障害と構音障害との関連性を理解し、効果的治療に結びつけるための知識を諸研究を通して学び、発展させる。 障害の重症度に応じた拡大・代替コミュニケーション方法について情報収集を行い、その有用性について学ぶ。					
(方法)					
配付資料を中心に学習し、実際の音声などを適宜聞きながら理解を深める。各講義の終わりに課題を課すことがあるので、指定提出日までに提出すること。レポート課題については回収後講義内で解説を行う。					
【一般教育目標 (GIO)】					
運動障害性構音障害の評価・治療方法を構築するために、障害の解剖学的・神経生理学的な関連を理解できるようになる。構音の障害を運動療法的視点から根拠のある治療に結びつけることができるようになる。					
【行動目標 (SB0)】					
運動障害性構音障害の症状に応じ、運動療法、構音訓練、拡大・代替コミュニケーション方法それぞれの適応について判断できるようになる。 疾患による予後予測ができるようになる。					
【教科書・リザーブドブック】					
適宜資料を配付する。その他講義中に指定する。					
【参考書】					
城本統/原由紀編集、標準言語聴覚障害学・発声発語障害学第3版、医学書院、2021年、5500円 廣瀬肇/柴田貞雄/白坂康俊、言語聴覚士のための運動障害性構音障害学、医歯薬出版、2001年、5500円					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価はレポート80%、各回講義時の課題20%で行う。 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			20	80					100
評価 指標	取り込む力・知識		10	30					40
	思考・推論・創造の力		10	50					60
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	発声・発話の基礎知識 ・内言語と外言語 ・呼吸、発声、構音の仕組み	講義	表題関連事項についてこれまでの知識の復習・整理 適宜課題の作成と復習	予習90分 復習90分
2	発声発語と神経・筋系の仕組み ・呼吸器官の構造 ・発声器官の構造 ・構音器官の構造	講義	表題関連事項についてこれまでの知識の復習・整理 適宜課題の作成と復習	予習90分 復習90分
3	原因疾患と発話の特徴1 ・脳血管障害	講義	表題関連事項についてこれまでの知識の復習・整理 適宜課題の作成と復習	予習90分 復習90分
4	原因疾患と発話の特徴2 ・その他の神経筋疾患	問題解決型学習	表題関連事項についてこれまでの知識の復習・整理 適宜課題の作成と復習	予習90分 復習90分
5	検査と評価1 ・発声発語器官の評価 ・標準ディサースリア検査	講義	表題関連事項についてこれまでの知識の復習・整理 適宜課題の作成と復習	予習90分 復習90分
6	検査と評価2 ・音声・構音の評価 ・機器を用いた検査	問題解決型学習	表題関連事項についてこれまでの知識の復習・整理 適宜課題の作成と復習	予習90分 復習90分
7	運動機能へのアプローチ ・姿勢と頭頸部のコントロール	講義	表題関連事項についてこれまでの知識の復習・整理 適宜課題の作成と復習	予習90分 復習90分
8	補綴装置 軟口蓋居城装置とその適応	講義	表題関連事項についてこれまでの知識の復習・整理 適宜課題の作成と復習	予習90分 復習90分

9	拡大・代替コミュニケーション(AAC) ・ローテク機器 ・ハイテク機器	講義	表題関連事項についてこれまでの知識の復習・整理 適宜課題の作成と復習	予習90分 復習90分
10	まとめ	講義 討議	これまでの講義内容についての復習・整理 課題レポート作成	予習90分 復習90分
11	検査の実際①	講義、実技	AMSD検査	予習90分 復習90分
12	検査の実際②	講義、実技	AMSD検査	予習90分 復習90分
13	検査の実際③	講義、実技	AMSD検査	予習90分 復習90分
14	治療の実際① 発話速度の調節法	講義	ペーシングボードなど	予習90分 復習90分
15	治療の実際② 発話速度の調節法	講義	リズムックキューイング法	予習90分 復習90分

【科目名】器質性構音障害学		【担当教員】佐藤 真由美
【授業区分】専門科目	【授業コード】s168	(メールアドレス) mizugame000@yahoo.co.jp
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 来学時に対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 特になし (受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成AIの利用は不可とします。		
【講義概要】 (目的) 器質性構音障害に関する症状、発生原因、評価および情報収集について学習する。異常構音に対する治療アプローチを理解する。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 器質性構音障害について理解を深め、ビデオ教材を活用しながら具体的症例を交え構音障害の症状や評価、治療法について学ぶ。 試験・レポートのフィードバック方法：コメントを付して返却する。		
【一般教育目標 (GIO)】 器質・機能性構音障害学に関する基礎知識を習得する。 診断性を修得する。 訓練・指導計画を立案でき、訓練指導の実際を理解する。 【行動目標 (SB0)】 各種検査を模擬的に実施することが出来る。 検査結果をもとに所見を述べる事ができる。 治療方針を考察することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害 斉藤裕恵 編著 建帛社		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	構音障害概説	講義	口腔構音器官の解剖	180
2	構音検査の実際	講義	前回講義の復習	180
3	必要な情報の収集法	講義	前回講義の復習	180
4	器質性構音障害の検査・診断・評価	講義	前回講義の復習	180
5	異常構音	講義	前回講義の復習	180
6	鼻咽腔閉鎖機能の様態と原因	講義	耳鼻咽喉科学	180
7	口腔顔面領域の異常と構音障害	講義	前回講義の復習	180
8	総合的な治療方法と治療計画の立案	講義	前回講義の復習	180

【科目名】機能性構音障害学		【担当教員】大平 芳則
【授業区分】専門科目	【授業コード】s169	(メールアドレス) y.ohdaira@nur.ac.jp (オフィスアワー)未定
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 事前に関連文献を読む。前講義の復習をする。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻、欠席、早退は学則に従う。		
【講義概要】 (目的) 機能性構音障害の概要、評価、訓練方法等について理解し、実際に指導ができる基礎的能力を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 機能性構音障害を熟知し、構音の評価ができるように学習する。訓練は体験により指導方法を学ぶ。 レポート内容は症例の音声サンプルを聴き構音検査を用いて評価から分析、訓練プログラムを立案する		
【一般教育目標 (GIO)】 機能性構音障害の概要、検査、訓練について理解する。 【行動目標 (SB0)】 機能性構音障害の評価から症状を分析し、訓練プログラムを立案することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 なし。 資料を配付します。		
【参考書】 ・阿部雅子：構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 改訂第2版. 金原出版, 東京, 2008. ・本間慎治, 東江浩美, 為数哲司, 原修一, 井村弘子：言語聴覚療法シリーズ7 改訂 機能性構音障害. 建帛社, 東京, 2007 ・今村亜子：構音訓練に役立つ 音声表記・音素表記 記号の使い方ハンドブック. 協同医書出版社, 東京, 2016.		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポート100％で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	機能性構音障害の概要と基礎的知識	講義	配付資料の復習	180
2	機能性構音障害の症状とタイプ	講義	配付資料の復習	180
3	新版構音検査による評価	講義	配付資料の復習	180
4	新版構音検査 演習 (1)	講義 演習	配付資料の復習	180
5	新版構音検査 演習 (2)	講義 演習	配付資料の復習	180
6	構音障害の具体的な訓練方法	講義	配付資料の復習	180
7	録音音声を用いた評価演習	講義 演習	配付資料の復習	180
8	録音音声を用いたプログラム立案	講義 演習	配付資料の復習	180

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・講義に関するオリエンテーション ・吃音・流暢性障害の一般的知見と重要性	講義	「吃音症」に関する一般的な情報について、インターネット検索で調べ、吃音症に対する社会的視点について簡単に整理しておく。	180
2	・吃音・流暢性障害の一般的知識との違いを踏まえ、学際的・臨床的重要性について触れる。またその歴史、ICF位置づけ、タイプ別の症について教授する	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	180
3	・吃音症の原因論と発生メカニズム（諸説） 学際的知見と今後の方向性 ・幼児期の発話流暢性の発達機序と吃音、その適切なかわり方	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	180
4	・他の障害を重複する吃音症の特徴 学際的知見と今後の方向性	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	180
5	・流暢性障害の評価・診断 吃音検査法の概略説明および当該検査法における評価方法として、一部音声サンプルの聴取と記録の取り方（演習）	講義 演習	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	180
6	・流暢性障害の治療（間接法と直接法）Ⅰ 環境調整法、流暢性形成法、吃音緩和法 統合法、その他、種々の治療法	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	180
7	・流暢性障害の治療（間接法と直接法）Ⅱ 種々の治療法について事例を通して触れる	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	180
8	・流暢性障害の心理的要因と環境要因 当事者を取り巻く地域社会（団体・組織の社会的活動）の在り方と支援	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	180

【科目名】小児聴覚障害学		【担当教員】橋本 かほる
【授業区分】専門科目	【授業コード】s171	(メールアドレス) hashimoto.kahoru@kuas.ac.jp
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 随時メールで質問・相談に応じます
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目の履修に際しては、耳鼻咽喉科学、補聴器・人工内耳、聴覚検査学、言語発達学、言語学の基礎知識が必要です。よく復習を行っておいてください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 授業で示した内容に該当する教科書の範囲を熟読し復習中心に行ってください。授業資料はありますが、教科書の読解に努めてください。 生成AIの利用は禁止しています。授業内での利用は厳禁となっており、このルールに違反した場合は、学内の規程に則って、適切な措置を取ります。		
【講義概要】 (目的) 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う (方法) 主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。授業内容の理解度確認のため、ドリルを行います。解答については授業内で解説し、知識の定着を図ります。		
【一般教育目標 (GIO)】 小児聴覚障害は、発症時期によってことばの獲得に影響を与え、対人関係や社会性にも大きく影響する。そのため、小児期特有の問題（原因、難聴の程度、年齢による影響、小児期の耳鼻咽喉科の疾患など）を理解し、補聴器や人工内耳などの補装具を装用した聴こえやことばの評価、また言語習得法についての理解を図る。 【行動目標 (SB0)】 1) 聴力障害によってもたらされる小児期の問題を理解できる。 2) 小児期の聴覚障害児の検査法を正しく選択できる。 3) 小児聴覚障害児の言語及びその他の発達を評価する方法を取得し、適切な手続きを経て実施し、訓練プログラムを立てられる。		
【教科書・リザーブドブック】 聴覚障害学 第3版、城間将江・鈴木恵子・小淵千絵編 医学書院 ISBN 9784260043502		
【参考書】 子どものことばを育てる 聞こえの問題に役立つ知識と訓練・指導 能登谷晶子・原田浩美編 協同医書 ISBN 9784763930583		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価は試験80%と授業参加度（授業中の意見の頻度やその内容等）で評価を行う。成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	聴覚障害のリハビリテーションの歴史と現状 小児期における聴こえの問題と影響について	講義	予習：教科書p7-21, 246-251を読む 復習：難聴の発症時期による言語習得およびコミュニケーションへの影響・聴覚障害のリハビリテーションの歴史と現状をノートにまとめる。	予習90分 復習90分
2	【評価】 聴覚障害の評価 定型発達乳幼児の聴覚発達と聴覚機能検査 乳幼児期の聴力検査	講義	予習：教科書p4-5, 117, 120-127を読む 復習：聴覚障害児の評価の概要について、発達年齢に応じた乳幼児の聴覚検査についてノートにまとめる。	予習90分 復習90分
3	【評価】 補装具装用時の聴こえとことばの評価	講義	予習：教科書p220-227を読む 復習：語音聴取評価の検査（CI-2004、MAIS、MUSSなど）についてノートにまとめる。	予習90分 復習90分
4	【評価】 乳児期から就学前の幼児の発達評価 聴覚障害児の認知発達評価と特徴	講義	予習：定型発達児の発達について確認する。教科書P272-274を読んでくる。 復習：聴覚障害児の発達の特徴、認知検査の特徴についてまとめる。	予習90分 復習90分
5	【評価】 幼児期から就学以降の言語評価 行動、情緒、パーソナリティ、社会性などの評価	講義	予習：教科書P261-269, p274を読んでくる。 復習：重要な点を自己学習帳にまとめる。	予習90分 復習90分
6	【指導・訓練】 小児聴覚障害におけるコミュニケーションの選択 小児聴覚障害における聴覚活用	講義	予習：教科書p263-264, p280-284を読む。復習：コミュニケーション手段の種類を整理すること。聴覚障害児にとっての聴覚活用の必要性やその方法についてノートにまとめる。	予習90分 復習90分
7	【指導・訓練】 聴覚障害児のハビリテーションプログラムの立案	講義	予習：教科書p290-312を読む 復習：ハビリテーションの基本的な考え方、目標の設定についてノートにまとめる。	予習90分 復習90分
8	聴覚障害と情報保障 ライフステージからみた聴覚障害児へのサポート	講義	予習：教科書P378-386を読む。聴覚障害児が人生の中で経験する問題やライフステージに沿ったサポートをノートにまとめる。復習：居住地域の公的な情報保障について調べる。	予習90分 復習90分

【科目名】成人聴覚障害学		【担当教員】大平 芳則	
【授業区分】専門科目	【授業コード】s172	(メールアドレス) y.ohdaira@nur.ac.jp	
【開講時期】前期	【選択必修】選択		
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー)未定	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
成人聴覚障害における各種評価、訓練法、援助方法、補償機器、関係法規、各ライフプランに応じた難聴の支援法などを学ぶ。 視覚聴覚二重障害についても、原因、評価、コミュニケーション法、支援法を学ぶ。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
【講義概要】			
(目的)			
成人聴覚障害に対して、言語聴覚士が行う評価方法及びコミュニケーション支援方法など総体的に理解を深めることを目的とする。聴覚障害の評価、特にオーディオグラムの読み方を学び、そこから得られる情報と社会的要因を考慮したうえでの問題点を考察する。また、聴覚障害の原因についての知識を広げるとともに、聴覚障害を持つ人の各種コミュニケーション方法、リハビリテーションについて学ぶ。さらに、ろう文化への理解を深め、同時に心理・社会的困難を理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う			
(方法)			
主に講義によって行ないますが、演習も一部取り入れます。			
【一般教育目標 (GIO)】			
・成人聴覚障害の原因、問題、援助方法、関係法規について学ぶ。 ・オーディオグラムから各種疾患や障害、難聴のタイプなどを読み取ることができる。 ・ろう文化について理解を深める。			
【行動目標 (SB0)】			
・成人聴覚障害の原因と問題について説明できる。 ・各疾患や難聴の程度、発症の時期などから、適切なコミュニケーション法を選択、説明できる。 ・オーディオグラムから、平均聴力、聴力型、難聴のタイプ、疾患の予測を行うことができる。 ・視覚聴覚二重障害について説明できる。 ・ろう文化について説明できる			
【教科書・リザーブドブック】			
なし。 資料を配付します。			
【参考書】			
中村公枝・城間将江・鈴木恵子『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学』医学書院 2021年 5,200円＋税 山田弘幸『言語聴覚療法シリーズ5改訂聴覚障害Ⅰ基礎編』建帛社 2007年 ¥2,500＋税 山田弘幸『言語聴覚療法シリーズ5改訂聴覚障害Ⅱ臨床編』建帛社 2008年 ¥2,500＋税			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポート100%とする。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・成人聴覚障害とは何か 定義、分類、原因 ・ライフステージと聴覚障害	講義	授業内容を復習する。	180分
2	・疾患別にみた聴覚障害の特徴 (1) 伝音難聴	講義	授業内容を復習する。	180分
3	・疾患別にみた聴覚障害の特徴 (2) 感音難聴	講義	授業内容を復習する。	180分
4	・聴覚障害者の支援 ・補聴器と人工内耳	講義	授業内容を復習する。	180分
5	・合理的配慮 ・要約筆記と手話通訳	講義	授業内容を復習する。	180分
6	・ITによる支援技術	講義 演習	授業内容を復習する。	180分
7	・読話	講義 演習	授業内容を復習する。	180分
8	・手話言語とろう文化 ・盲ろう (聴覚二重障害)	講義	授業内容を復習する。	180分

【科目名】補聴器・人工内耳		【担当教員】大平 芳則
【授業区分】専門科目	【授業コード】s173	(メールアドレス) y.ohdaira@nur.ac.jp (オフィスアワー)未定
【開講時期】後期	【選択必修】選択	
【単位数】2	【コマ数】15 コマ	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 音響学および聴覚にかかわる基本的な解剖・生理を修得していることを前提とする。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 覚えるのではなく、理解することを心がけて学修に臨んで欲しい。		
【講義概要】 (目的) 補聴器と人工内耳を含む人工聴覚器の仕組み、機能、適応、効果と限界について、基礎的な知識を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 試験・レポートのフィードバック方法：小テストについては解答例を示す。		
【一般教育目標 (GIO)】 補聴器と人工内耳を含む人工聴覚器の仕組み、機能、適応、効果と限界について、基礎的な知識を身につける。 <		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 補聴器概説： 構造、機能、分類、耳栓	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
2	補聴器の構成部品： マイク、アンプ、イヤホン、電池	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
3	補聴器の構成部品： 耳栓（イヤモールド）の作成法と機能	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
4	イヤモールド： 彩型実習	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
5	補聴器の性能と測定： JISの用語 測定される性能とその測定方法	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
6	補聴器の増幅： 線形増幅 非線形増幅と圧縮比	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
7	補聴器のフィッティング： フィッティング概論	実習	講義内容（配付資料）の復習	220
8	補聴器のフィッティング： フィッティングの実際	実習	講義内容（配付資料）の復習	220

9	補聴器のフィッティング： 適合判定	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
10	補聴器その他： 両耳装用の効果・保守と点検のしかた・S/N比の改善、FMシステム、テレコイル・赤外線システム、ハウリング抑制、雑音抑制・RIC	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
11	人工内耳概説： 構造としくみ 対象 人工内耳による聞こえの回復（ビデオ視聴）	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
12	人工内耳の適応基準と評価： 成人および小児の適応基準 術前評価、術後評価	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
13	人工内耳のその他： マッピング（プログラミング）、マイク感度 人工内耳の限界、テレメトリ、生活への影響、 auditory neuropathyと人工内耳	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
14	人工聴覚器： 人工中耳 骨導インプラント	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
15	補聴器と人工内耳： 国家試験過去問題に挑戦	講義	講義内容（配付資料）の復習	220

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 聴力検査の分類と検査音、記録用紙、閾値の決定 方法	講義	配付資料の復習	220分
2	純音聴力検査： 準備と予備検査	講義	配付資料の復習	220分
3	純音聴力検査： 本検査の実施手順、平均聴力レベル	講義	配付資料の復習	220分
4	マスキング： 意義、方法	講義	配付資料の復習	220分
5	語音聴力検査： 語音了解閾値検査、語音弁別検査	講義	配付資料の復習	220分
6	閾値を表す単位： dBSPLとdBHL	講義	配付資料の復習	220分
7	インピーダンスオージオメトリ： ティンパノメトリ、耳小骨筋反射検査	講義	配付資料の復習	220分
8	内耳機能検査： リクルートメント現象 SISI検査、自記オージオメトリ	講義	配付資料の復習	220分

9	内耳機能検査： ABLB、メッツテスト	講義	配付資料の復習	220分
10	他覚的聴力検査： 聴性脳幹反応（ABR）、蝸電図	講義	配付資料の復習	220分
11	他覚的聴力検査： 耳音響放射（OAE）、聴性定常反応（ASSR）	講義	配付資料の復習	220分
12	乳幼児聴力検査： BOA、COR、遊戯聴力検査	講義	配付資料の復習	220分
13	スクリーニング検査： 3歳児健診、新生児聴覚スクリーニング	講義	配付資料の復習	220分
14	補聴器適合検査	講義	配付資料の復習	220分
15	耳鳴検査 耳管機能検査	講義	配付資料の復習	220分

【科目名】		聴力検査演習		【担当教員】	大平 芳則
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s175	(メールアドレス) y.ohdaira@nur.ac.jp (オフィスアワー) 未定	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	23 コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
・純音聴力検査、語音聴力検査の検査手順を熟知していることが必要である。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・時間割の組み方によっては、授業内容の順序変更を行う可能性がある。					
・言語聴覚士の国家試験受験に必要な科目である。					
【講義概要】					
(目的)					
言語聴覚士に必要な聴力検査方法のうち、特に純音聴力検査と語音聴力検査について、的確に実施できるようになる。また、自記オーディオメトリー、SISI検査、インピーダンスオーディオメトリーについて検査手順を実際に経験する。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
(方法)					
学生同士もしくは教員と実習を行ない、実施手順を身につける。					
【一般教育目標 (GIO)】					
使用頻度の高い聴力検査について、実習を通じて、臨床現場で対応できる技能を身につける。					
【行動目標 (SBO)】					
純音聴力検査と語音聴力検査が適切に実施できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
指定しない					
【参考書】					
日本聴覚医学会（編） 聴覚検査の実際 南山堂 2017 3400円＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。					
・レポート100%とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1～2	ガイダンス 聴力検査とは：講義	講義	講義の復習	180分
3～5	純音聴力検査：講義	講義	講義の復習	180分
6～8	純音聴力検査： 実習	実習	レポート作成 本検査の目的、手 順、実施結果の評価など	180分
9～11	語音聴力検査：講義	講義	講義の復習	180分
11～13	語音聴力検査： 実習	実習	レポート作成 本検査の目的、手 順、実施結果の評価など	180分
14～15	インピーダンスオージオメトリ：講義	講義	講義の復習	180分
16～17	インピーダンスオージオメトリ： 実習	実習	レポート作成 本検査の目的、手 順、実施結果の評価など	180分
18～19	自記オージオメトリ：講義	講義	講義の復習	180分

[illegible]

